

幼児の教育

第五十卷

第八號

日本幼稚園協會



8

kaz4

フレール研究のために

長田新著

フレールに還れ B6判 三〇〇円

凡そ幼稚園教育の真精神は、基督教の真精神がキリストのといた教に、基督教の真精神が釈迦のといた教にかえるよりの、真精神が釈迦のといた教にかえるよりの、なくしては決して把握出来るものではない。この信念が奔出してこの書をなすに至つた。(著者序文より)

莊司雅子著

フレールの教育學

A5判 上製 四五〇頁 定価 四〇〇円 三三五円
人類教育の全史中最も深遠難解であるといえるフレールの教育思想を最も端的に解明せるもの。

幼児の教育 (第五十卷・第六号)

『フレール百年記念特集号』

〇フレール百年記念特集号に序して
日本に於けるフレール研究を顧る

〇フレール教育學の本誌主幹 倉橋惣三

〇フレールの幼児教育論 長田新

〇アメリカに於けるフレール運動 莊司雅子

〇フレールの生涯 水野浩志

御茶の水女子大講師 津守真

講読希望の方は多少保存分として在庫が
ありますから、送料共金五十八円を添え御
注文下さい。

東京都千代田区神田神保町2-4 振替東京 19640番

株式会社 フレール館

倉橋惣三著

育ての心

新増版!
B6判 三九二頁
定価 三〇〇円

すでに二十二版を重ねた旧著の再刊。

東京女高師附属幼稚園の主事として永く児童教育に従事して来た著者の『時を異にし、所を別にして、或は想い或は語り、或は答え』そして教えている随筆集である。『自ら育つものを育たせようとする心。それが育ての心である』と『育つものへの久遠の信仰』に帰依した著者は語っているが、このような自己の天職に信じきつた人の淡々とした一面がうかがわれると共に、滋味に富んだ情熱も感じられる書である。(図書新聞評)

東京都文京区元町一の一五

乾元社

振替東京四〇一八番

全保連仙台大会の盛会を祈る.....	倉橋 愨	三	(2)
保 育 の 元 突.....	倉橋 愨	三	(3)
夏の自然観察.....	堀 七 藏	三	(15)
アメリカ童話から(一一).....	松 原 至 大	六	(27)
幼稚園保導研究協議会記録(東京淡路幼稚園)			(30)
第四回関東保育協議大会記.....			(48)
フレール破後百年を記念する二つの催おし.....			(50)
官 廳 公 示 連 絡 事 項			
附屬幼稚園の名称変更(文部省).....			(51)
単位修得のおしらせ.....			(11)
日本幼稚園協会主催・保育講習会.....			(14)
お茶の水女子大学主催・幼稚園教員免許法認定講習会.....			(12)
会 場 公 示 連 絡 事 項.....			(52)

(表紙...脇田 和)

全保連仙台大會の盛會を祈る

倉 橋 惣 三

第五回全保連大会が、八月六七兩日仙台に開かれる。その盛會を祈つて已まない。日本の幼児のために尽す同志

が、幼稚園、保育所の差を超え、国、公、私立の別を離れて、一つに幼児保育の心において、全国から会同することの如何に偉觀といふべきであらう。しかも、それが、單に随時的の会合でなく、あなたの全国保育連合会という恒常の集團の主權による、定時の年中行事たることにおいて、それがもつ意義、集り会する各員の心の極めて深きものがある。初めて東京にその第一回が発會せられた以前には、こういうものは我國に、あるべくして無かつたのである。

そして、全保育者の心から遺憾としていたことである。それが奈良に、新潟に、福岡に、第二、第三、第四と回を重ね來つて、今年の第五回に至つたのである。

殊に今年は、仙台市の特別の疑待として、仙台名物大七夕祭を以て、参集会員の目を慰めるといふよりも、驚かそうとしていられると聞く。目醒むる大趣向といふべきである。紅(公)紫(私)各々その妍を競いつつ、相交錯し、

相共和してこそ、保育界の錦を織りなすの壯觀を呈するところか。

部會が幼稚園、保育所の各分科に分れて、学校教育法によるものと、児童福祉法によるものと、その運営の討議にも、その方法の研究にも、各々の適切成果が予期せられるは素よりである。しかし、この分科会は、それぞれ独立のものである以上に、全保連大会のうちのものである限り、施設としての各自の差異を自認すると共に、幼児保育の精神における共通を確認し、その差を以つて相協力し、その差異を以て相合する、真に日本の幼児のためのものである連合の大道を明かにするのでなければなるまい。これ亦、七夕の色紙が、それ／＼の形をもちながら、心を一つにして星を祭るのに似るものか。

酷暑を克服しての連日の熱心なる大会の、後に觀光、視察、レクリエーションの何んと豊富なる用意のされていることか。好みは君に任す。政宗公の雄志にもさんざんぐれ風流あるを忘れ拾うなよ。



保 育 の 充 實

六月二日千葉県成田町において開催の
関東保育協議大会における記念講演

倉 橋 惣 三

本日は久し振りにみなさんとおめにかゝり、元氣な御顔を
拜見出来大変うれしいと思います。ことにこの成田幼稚園に
は親しい思い出がありまして、三十余年前に日本の幼稚園の
中で、庭の美しい幼稚園として、この幼稚園を紹介した事が
あります。その後ずつとこの幼稚園の庭の様子は私の頭から
去らないのですが、今再びこゝにお訪ねする機会を得て、昔
通りの綺麗な庭を拜見出来たのは、非常に楽しいことと思
います。

さて、本年はフレーベル先生の歿後百年忌にあたります。
それで世界の各国で、先生を記念するための色々な会が催さ
れます。日本でも方々で行われる予定であります。

もし本日の会合が百年前でしたら、必ず先生をお招きにな
つたことと思います。

我々はフレーベル先生を幼児教育の先達として非常に尊敬

している。ところが一般的にはフレーベル先生の名前がそれ
程よく知られているとは思われません。教育者の名前をよく
理解しないのは我国一般社会の風潮で、いたし方がないとい
えばいえるが、知識界の人にも時たまフレーベルという名を
知らない人があります。先達もある人と話をした時、フレー
ベルつて神田にあるあれですかという話だつた。(笑声)これ
には呆れました。

そこで今年の百年祭を機会に、フレーベル先生の名前を一
般に知らせるようになければいかぬと思います。それで今
月(六月)の二十一日が先生のなくなつた日ですが、私共と
しては二十三日にお茶の水で記念講演会をやる予定でありま
す。『幼児の教育』でもフレーベル記念特集号を出しました。
又、二十四日にはNHKからドラマチックにされたフレーベ
ルの話が放送されます。この人の名をひろめる事は幼児教育

の精神をひろめる所以であると思ひ、及ばずながら力をいたしてゐる次第であります。

さて、このフレイベル先生は、幼稚園の、何と申しますか、開祖、あるいは元祖もおかしいが、とにかくはじめて幼稚園をはじめられた人だという事はよく御承知のことです。

しかしフレイベルがはじめてブランケンブルヒに開いた小さなキンダーガルテンにしても、又、晩年にリーベンスタインに開いたキンダーガルテンにしても、その実際は、今日少くも我国において幼稚園といわれているものと必ずしも同じ外観のものではなかつたようです。ブランケンブルヒに開いた幼稚園の場所というものは今もなおのこつてをりますが、まことにさゝやかなのに私も驚いた位でありまして、幼稚園のために特に設計されたというようなものではない。まことにへんぴな小さい建物にすぎないのです。リーベンスタインの場合は、既に有名なものでしたが、そこに集つてゐる子供達はどうな子供達だつたかという、当時の模様を詳かに書いたものによると、殆んどみなハダシの子供でした。着物もロクに着てゐない子供が多かつたらしいのです。田舎の子供達でとにかくあまりキレイな子供はいなかつたのであります。だから若し、問題の理解というものを周到にしない人があつて、このキンダーガルテンを見たら、これは一体幼稚園だろつかということになりはしないかと思われれる位です。これは

幼稚園というよりも、むしろ保育所だ。託児所だといふかも知れないと思うのです。キレイな子供、可愛い子供はいない、外見みすばらしい子供達の集合であつた。従つてフレイベルが幼稚園をつくつたという歴史において、それは少くも今日世人が普通に考へてゐる幼稚園とはちがつていました。

先程、私もし百年前であつたら今日のこの会合にフレイベル先生をお迎えするだろうといふましたが、もし今日、フレイベルが日本に来たら、日本の保育界の盛んな有様におどろくことでしょう。フレイベルの晩年には、幼稚園禁止令が出てフレイベルを悲しませましたのですが、そういう悪い状態の下で、難儀して幼稚園教育をやつて来たフレイベル先生からみたら、現在の日本の幼稚園教育の発展ぶりは、まことに感慨無量なものが御座います。

ところで、仮りに若しフレイベル先生が、私共に、日本の保育の状態を話せということになつたら一体どうお答えすればよいか。その時は、日本には色々な名前のキンダーガルテンがある。あるものは幼稚園と訳してゐる。又あるものは保育所といつてゐると申上げましょう。そしてそれから先のことについては、大体、そういう区別を全く念頭におかなかつたフレイベル先生にどうやつて説明したらわかつてもらへるか一寸見当がつかないと思うのです。これらは管理と制度の問題です。本質的にはどういふちがいが兩者の間にあるのか、

私にもよくわからないのですが、幼稚園の先生は教諭と称し奉り、(笑声)保育所の方は昔ながらの保母という、このちがいは、私の流暢なドイツ語を以てするも、到底フレーベル先生に理解してもらえないのではないかと思えます。

フレーベル先生のはじめたものは、幼稚園原理——つまり幼児教育の根本原理であります。根本原理の実現であります。フレーベルを幼稚園の元祖といつて、保育所の方はたかだか叔父さん位にしか考えていないということであれば、子供を愛する事のみ知つているこの大教育者をして、徒らに理解に苦しめる事になるのではないかと思うのです。少くも百年以前をふりかえつた私のイマヂネーションにおいて、そういう気がします。

同時に又、フレーベル先生は、つゞいて我國の幼児保育界の実情、将来についていろいろな質問をされる事と思えますが、たとへば施設の数なんかについても、ホウ、それは大変な数だ、そんなに盛なのかと驚かれるにちがいない。又、その制度の問題、幼稚園は学校教育法で管理され、保育所は見童福祉法で管理されているというようなこと、実に立派に行き届いていると感心されることで御座いましょう。又学問的研究もよく行われている、實際家、学者による研究の成果が続々と発表されている。実に盛な事だと驚き、且つその点については大によるこばれるにちがいないと思うのです。

しかしながら先生は、更にこういわれるにちがいであります。成程大麥盛だね、だが一体その実質についてはどうだろうと。

保育の問題ということを社会的に考えました場合は、制度法令というものは勿論大いに大切なものにちがいであります。しかしながらフレーベル先生は端的に本質をお考えになるにちがいでありません。その時に私は一体何といつてお答えすれば一番よろしいか。その時はみなさんとよく御相談して、その御相談した結果を、お答えする外はありません。この間中、二度もアメリカから教育使節団が来て、日本の幼児教育についても話しあいました。その人達は制度、法令、数の統計、こういうものに非常に興味をもつてをられましたから、私も専らその点を話しました。しかしながら、その使節団の人達が日本の幼児保育の充実さ加減如何という点について深く聞かれたら私は何と答えたらよかつたでしょう。そういう本質を突込んで問われないのはあるいはアメリカの人達のエチケットかも知れません。人のことについて、あまり穿つた質問をするものではないという心配りからであつたかも知れません。そういう意味で問われなかつたのかも知れませんが、しかし、フレーベルのように物事の真髓に突入しないでをられない人にとつては、——自分の考えが自國にとり入れなければ、他の國に行つてまでと考えた、禁止令が出てからも、先生をとりかこんだ人達も、そんなものに構わずに大

会を開いて話をきいたというような、そういう真髓に即して、保育を見、保育を考える人にとりましては、実質の充実という事を必ず問われるにちがいないと思うのです。

さてその場合、私はどう答えるだろうかとということなんです、その時私は、制度組織のことは多少の喰いぢがい、ぶつかり、あいというものもあるかも知らんが、それは先生が外から御らんになつて程のものではないとお答えしましょう。しかし保育実質の充実という点については、フレイベル先生のお求めなされるように充実していると答えるべきか、又は必ずしもそうとはいえない事を遺憾とすると答えるべきか、一寸迷うのです。

勿論、迷うと申しましたが、私は日本の保育の実質が、みなさんの力で立派にやられていくことを否定するものではない。成田の山口政子先生のような人、その他同じような先輩をピツクアツプすれば、フレイベル先生の前に出ても立派に吹聴出来る人が沢山あると思う。年齢的にわかい人であつても今やつてゐる事を紹介すれば、立派に申し開きは立つと思う。しかしそれは制度とか組織とかいう程ハツキリした事ではないのです。だからこの問題は時に世間の人、保育界以外の人のいうことに耳を傾むけるだけではなく、幼稚園、保育所の人達そのものが反省せねばならぬ。しかし世間映えのしない方面の反省は、断食をしたり、水ごりをとつたりし

て、しつかり、反省する必要が時々あるのぢやないかとも思っています。(笑声)

実質の充実の問題ですが、充実しているというのは保育としてはあたりまえの事だといえる。あたり前のことを、あたり前に説明する事はむずかしいから、反対の方から考えをすすめて行きますが、充実していない保育とはどんなもの进行うか。

いねむり保育であり、ぼんやり保育であり、うつかり保育であるというようなものはどうでしょう。——もともと保育とはみなさんと幼児の間のことですから。兩者の間の事実である。手を叩いて音が出た場合、どつちの手から音が出たのかというようなもので、片方だけでは保育は出来ません。幼児と先生との間にある。そこで見地を少し改めて、充実するといつてもいろいろあります。願望の充実というのもあるうし、肉体が充実するというのもある。「私この頃大分身体が充実してよ」なんてのもある(笑声)しかし教育、保育における充実ということになれば、幼児教育における充実ということになれば、それはつまり創造的、自発的の充実のみ考えられる事ではなからぬ。従つて充実せる保育において、保育を構成する先生と幼児が夫々に創造的自発的であるのでなければならぬわけになります。

一体、フレーベルという人の偉いところはどこにあるかと申しますと、いろいろな事が数ぞえられるでありましようが、幼児の自発という事をモトにして幼稚園を考え出したという事でありましよう。如何にいふ子供にしようか、如何によい子にするかという事は、必ずしもフレーベルを待たずとも誰れでもの問題です。しかし幼児の創造性をハツキリと強い信念をもつて認めたという点は、実にフレーベルの特色です。フレーベルの前にそういうものはない。リーベンスタインで子供と遊んだ時にフレーベルは七十歳でありました。余り子供と同じに遊ぶので世間では馬鹿爺といつていた。フレーベルの児童観は、たゞ可愛い、面白いというのではなく、子どもの心は創り出すものである。創造するものであるという信念です。フレーベルは非常に子供に親しんだ。しかも、その時のフレーベルの目には、田舎の子供の一人一人の心にある創造の力が強く感じられていた。それが先生の幼児への愛であつたのです。

ところで、フレーベルが幼児に自発的創造性というものをみとめたといつても、それは学問研究の結果というわけではありません。フレーベルは学者というよりも、むしろ天才であるという事を言う人もあるが、兎に角、私はこう信ずるのです。即ち、フレーベルその人の中に強い創造の心、創造の力があつた。自ら創造をよるこぶ人にして、はじめて他人の創造性をよるこぶるのです。

創造性のない親や先生は、子供をうるさがりましよう。「何とお前はうるさい創造野郎だ。もう少し創造しないでお母さんの真似をしなさい。何とお前は創り出す力を余りに多くもちすぎてるんだ。もう少し創り出さないでじつとしていなさい」(笑声) こういう事で創造性を失つた父母は子供の創造性というものを頭からおさえてしまふが、フレーベルはリーベンスタインの子供の中に創造を発見したのであります。

フレーベルが自発的な学説をたてたのはフレーベルその人の中にそういうものがあつたからです。フレーベルは生い立ちから、又養育の關係から自然界とは關係が深い人です。だから自然の有つている創造性をよくわかつていました。若い時代には建築学者になろうとした時があります。それをテヨツトした機会からかわつて、家を組み立てるかわりに幼稚園を生み出した。建築者になろうとしたフレーベルならば、幼児ビルディングでもつくればよかりさうなものなのに、幼児入れの箱をつくらないうで、自らのびて行く幼稚園をつくつた。フレーベルは詩的な人だといわれるが、それは美文をつくるとか何とかいうことでなくして、「園」ガルテンという字に自分の創造性をみただけであります。

フレーベルがはじめてキングダーガルテンという言葉を発表したのは、あたかも時、春のことであります。或る日、峠越しにブランケンブルヒへ来る途中「キングダーガルテン」と

いう言葉を感じておりました。それが春であるところ、私は深い意味を感じております。おそらくツウリンギヤの森は新緑であつたにちがいない。全山これみどりであつたにちがいない。ツウリンギヤの新緑は美しい。成田の新緑のように美しい。そこで考えられたのが「園」という言葉だつたんですが、それは格別、美文とか何とかいうのではない。彼の心の中にある發達を愛する心であります。自ら發達するものではなくて、自發のよろこびはわかりません。自ら創造するものでなくして、創造のよろこびを解することは出来ません。こういう意味で、フレイベルは幼児の中に存する創造性をみた。あのハナタラシ、キカン坊が、何をしているかというようになことには捉われることなしに自分の創造力、燃え上るものを見たのです。

私はある外人と話をした時がある。その時は丁度燃え上るような新緑であつた。私はその新緑のもつているムクムクともり上る生命力みたいなものに、打たれたが、私の英語ではその感じを相手につたえる適當な言葉がみつからない。そこで私は突嗟に「ハウ、ムクムク」とやつてみた。ところがこれが相手に通じたんですね、相手は「オー、イエス、ムクムク」と答えてくれました。(笑声)創造するもの、自發するもの、燃え上るもの、じつとしてをられない世界中の子供に共通なムクムク性というものをフレイベルは發見したのであります。我々は保育の充実という場合に、まづこのムクムク性か

ら出發して行かねばなりません。

保育というものは先生と子供のいわばぶつかりあいです。子供だけがムクムクしても、先生がムクムクしなくては何にもなりません。但し、ムクムクとたゞ肥つていっている意味ではありません。

幼稚園や保育所においては、勿論このムクムク性は自明のことになつております。みんなが理解している事になつてゐます。第一、看板に「ムクムク生長所」とかいてある以上、ムクムク性を理解していかないというような事はいえない。しかし実際はどうであるか――

子供がお話をしてくれという。「又、同じ話よ」と気のなさに言うけれども、同じ話でも、それを話すたびにどれ程創造性をもつて話すかによつて、同じ話でも新しい獨創的なものとなつてくる。これは新しい話だといつても、獨創性のない話し方をしてはダルクなりません。子供はその話から「そうですか」という理解は得られても自分のムクムク性が抑さえられるからちつともよるこばないということになります。話す方で獨創性をもつて話をすれば、お爺さんは山へ、おばあさんは川へ……それを毎日のように話してもチツトモ古い話ではない。「今日はおもしろい話をして上げますよ。おもしろいはずの話をしてあげますよ」といつても、創造力がなかつたらその話はチツトモ子供をよるこばせない

のです。絵をかいたつて同じ事だ。子供は同じ絵を毎日かいてもその一つ一つがちがう。隠居がいつも同じのダルマの絵をかく事をおぼえて、来たものに一枚宛かいてやるというのはちがう。

私は保育の場面をみて、時にはなほだ哀愁を感じる時がある。子供をあつめてピアノを先生がひいています。子供がじつと先生の顔をみている。その子供の顔が言つてゐる、「それぞや先生踊れませんよ、何ならムリにおどりましようか」(笑声) 先生の方にムクムクがあれば、幼児の方はダルクてもそれに引き入れられてムクムクして行く。何に一番それがあらわれるか。まず朝の先生の顔です。モーニング・フェース、朝顔である(笑声) 子供によつては朝先生に「お早う」といゝかけて、その顔付をみて、一寸タチタチさせられる子供もいるか知れません。

幼児の自発性をその時、その場において出すということ、これが保育の要諦ともいふべきものでありますが、これは先生の問題です。その点フレibelに我國の保育の充実を聞かれて困る点もありはしないかと思うのです。

この間お茶の水で保育学会の大会がありました。その時の調査報告の中に、こういふのがありました。幼稚園にゐるのがいやな子供が何人いるかというやうな事が報告された。私はその報告をきいて、いろいろな事が考えさせられました。

た。学者はそれを幼稚園教育の効果が上つていないといふことで説明するかも知れません。だがそれを幼児の特性たる自発性という面から見る時、幼稚園にゐるのがいやになつたといふことは、一体自発性が止まつた事を意味するの、または伸びた事を意味するの。子供からいわせれば「今日もあの保育か」(笑声)といふことで幼稚園にゐるのがいやになるという子供もいるか知れぬ。自分の自発性がのびたために幼稚園にゐるのがいやになつたといふなら、それは見上げたものである。(笑声) 少くもその場合、先生と幼児の兩者の創造性、自発性がピツタリあわぬといふ事はいえると思ひます。

私は芝居が好きです。芝居のどこがいゝのかといふと、色もあるけれども、たとえは舞台の真中辺に誰れかゝいて、花道から出てくる人間を待つてゐる。じつとそつちの方をみている、あゝいうところがいゝ。そして花道から出て来て両方の眼と眼がバツとあう。「遅かりし由良之助」とか何とかいゝ乍ら見るんだが、あの時は両方の眼から火が出るやうな気がする。気がかゝつてゐる。あゝいうところが何ともいへません。保育の場合だつて先生と子供の気合です。向うから子供が「先生」とかけてくる。先生はそれをバツと受けて「オオ子供！」といふかいわんか、とにかく両方で気合がある。双方ピシヤリとあえば充実した保育が出来る。それが合わないでグシヤリとしまえば、充実した保育は出来ない

ということになります。幼稚園にゐるのがいやだという子供は、先生との間にこういう気合がかゝらないのだと思ひます。それは多分先生の方に獨創性がないからです。自発性がないからです。

保育の充実とは、先生と子供の間に、日々に新たにくり返される保育であります。マンネリズムではない。日々に新しいのだ。真似保育ではない、創造する保育です。

最近カリキュラムに対する関心が非常に高まつて来たのは大いによろこばしい限りですが、そして又カリキュラムというものはいうまでもなく大切なものですが、それも「借りキユラム」では何にもならない。他人のつくつたカリキュラムをそのままに頭からまるのみするだけのものであつてはつまりません。情性保育であつては何にもならぬ。どこまでも燃え上る獨創の保育でなければいけません。

さて、我々は如何にしたら休むことなき自発性と獨創性をもつておつかつてくる子供達と共に、創造の保育、自発の保育をもちうるか——子供がとんで幼稚園、保育所にくるようになつて、あの町、この村、あの市の保育が行われるようになつたとき、はじめて日本の保育は充実したといふらうと思ふのであります。

長々と不充実のお話をしましたが、このあとは銚子の波に譲ります。(編者註。全員銚子にレクリエーションに行く予定になつてゐる)レクリエーションといふことは、娯樂とか

休養とか訳しては意味が足りません。レ・クリエーションで活力を再び出すことです。再創造です。銚子の波は勢がいゝ。ドンと来て、ドンと来る。それを、「あゝいゝ景色だがまた同じ波が寄せて来た」ではつまりません。波は一つ一つ新しいのです。しつかりレ・クリエーションしていらつしやう。

(記録責任者 西山浪太郎)

(拍手)

— 近 刊 —

小木曾光著

産聲より歌うまで

R 6 一六〇頁 豫價 二〇〇円

著者獨特の体験に裏打ちされた幼児の音楽指導書、この種の類書絶無である斯界に送る新風

内 容 大 要

- 7 6 5 4 3 2 1
- 1 産声より歌うまで
 - 2 聴かせる音楽
 - 3 動作にあらわす音楽(リトミック)
 - 4 弾く音楽
 - 5 歌う音楽
 - 6 創作する音楽
 - 7 一年の保育案

株式会社

フレールベル館

東京都千代田区神田神保町二ノ四

単位修得の御知らせ

東京女子高等師範学校主催幼稚園教員認定講習を受講せられた方へ

今回、昭和二十二年の夏（昭和二十二年七月二十一日から五日間）と秋（十月八日から五日間）の二回に亘つて開催された標題の幼稚園教員認定講習会に出席された方に対し、夏季の分には教育原理一単位を、秋季の分には教育心理一単位を、二回とも出席された方には教育原理一教育心理一計二単位をお茶の水女子大学から授与されることになりましたからお知らせ致します。御希望の方は左の注意事項御熟読の上手続きをなさして下さい。

○講習修了の際差し上げました講習証明書を送附先きを明記した封筒（八円切手貼付）同封の上、左記本会宛て御送り下さい。これと引きかえに単位の証明書をお送り致します。○実費として金五拾円を御送り下さい。

日本幼稚園協会主催講習を受講せられた方々へ

昭和二十一年、二十三年、二十四年の三カ年に亘つて開催した講習会受講者に保育内容二単位を、お茶の水女子大学から授与されることになりましたからお知らせ致します。御希望の方は左の注意事項御熟読の上、手続きをなさして下さい。

受講期間と単位	受講期間	単位
	昭和二十一年九月十一日から四日間	（一単位）
	昭和二十三年七月二十一日から二十五日まで五日間……	（一単位）
	昭和二十四年七月二十一日から二十五日まで五日間……	（一単位）
	昭和二十一年のみを受講された方には残念ながら単位は与えられません。	

○右期間の受講者中、昭和二十五年九月現在東京都の公立幼稚園に在職の方は、東京都の教育委員会から授与されている筈ですから本学から単位の発行は致されませんから御承知下さい。

○講習修了の際差し上げてあります講習証明書を、左記本会宛て御送り下さい。この講習証明書と引きかえに単位の証明書をお送り致します。この際送附先きを明記した封筒（八円切手貼付）を同封して下さい。

○実費として金五拾円をお送り下さい。

○御不審の点は御遠慮なくお問合せ下さい。この場合返信料を必ずお添え下さい。

昭和二十六年七月

日本幼稚園協会

東京都文京区大塚町三五
お茶の水女子大学附属幼稚園内

お茶の水女子
大學主催
幼稚園教員免許法認定講習会

目的 幼稚園教育に関する一般教育並に教職教育を授け上級免許状を取得するための単位の修得を目的とします。

会場 お茶の水女子大学附属幼稚園遊戯室

期間 六月二十五日から八月十五日まで（五単位全部を修得するに要する期間）

受講資格 幼稚園教員免許状の所有者

會員 式 百名

科目及び講師

一般教育 家 政 學 一単位
お茶の水女子大学 講師 松平友子氏
お茶の水女子大学助教授 平井信義氏

六月二十六・二十八・三十・七月二・四日—午後三時—六時
學 一単位
お茶の水女子大学助教授 赤木シツ氏

自七月二十七日・至七月三十一日—午前九時—十二時

史 生 物 一単位
お茶の水女子大学教授 久米又三氏

七月十・十二・十四・十七・十九日—毎日午後二時—五時

教職科目 教 育 心 理 一単位
お茶の水女子大学講師 津守眞氏

自八月十二日・至八月十五日—毎日午前八時—十二時

教 育 原 理 一単位
お茶の水女子大学教授 牛島義友氏

自七月二十一日・至七月二十五日—毎日午前九時—十二時

認定講習会は、単位の修得のみが第一の目標であつてはならない。幼稚園の職にあるものの一日もゆるがせに出来ない教養を身につけること及び新しい教職、教科に関する知識や研究を獲得することが第一の目標でなければなりません。そしてこの勉強が自ら単位の修得になるとゆうことを常にねらつております。この度計画した五単位の科目内容は何れも幼稚園教諭にとつて身近かな実のあるものばかりで皆様からいい講習と喜んでいただけたらと思つております。

家政学の部では新しい考の下においての一般家政学についてを松平講師より、平井助教授よりは育児の一般について、並に幼児指導要録の中の「身体状況」「健康の習慣」等専門家側としての意図や、実際記録に当つての具体的な判定の標準等についてのお話がある筈です。

史学の部では、私共が教養として常識として知つておかなければならない史学の概論について、講義を伺うことになつております。

生物学については、一般の人々の知つておいてよい、知つておかなければならない興味ある問題が沢山ありますが、今回はその中の一つ「生物の発生と成長」について斯界の権威久米教授より学ぶことに致しました。

教育心理については新進気鋭の津守講師より、最近の心理学についての動向等を伺うことになつております。

教育原理については、幼稚園の教育に当つて必要な知能検査、性格検査、情緒性検査など、及び幼児指導要録の効果判定の原理及び具体的な標準等についてこの方面の権威牛島教授より伺うことに致しました。

申

申込 開講前日までに、姓名、住所、勤務先の名称、受講科目を明記して、東京都文京区大塚町、お茶の水女子大学附属幼稚園内、認定講習会係宛お申込み下さい。

注意

- 一科目毎に、実費として貳百円申し受けます。為替封入の上お申込み下さい。
- 定員をこえた場合はお断りすることがあります。
- 本講習の事務一切はお茶の水女子大学附属幼稚園内講習会係が致します。ご不審の点は郵券をそえてお問合せ下さい

昭和二十六年七月

お茶の水女子大学

東京都文京区大塚町

日本幼稚園協會主催 保育講習會

わらべうたと遊び

お茶の水女子大学助教

戸倉ハル氏

去年のこの講習會が済んでからこの一年間、私は吾が國の津々浦々までゆきわたつてゐるそして土地によつてそれぞれ異色を持つてゐる日本古來のわらべうたについて、これをどういふふうに教育的に幼稚園にとり入れようか又これに器樂を和して幼児に用いてみたらどうであらうかということを考へて來ました。そして現場の附屬幼稚園の先生方といつしよに研究して子供と遊んでみました。——戸倉講師の言葉——

期日 七月二十一日から同二十五日まで五日間

——毎日午後一時から四時まで——

會場 お茶の水女子大学体育館（都電大塚窪町下車）

會費 参百円（当日お持ち下さい）

申込み はがきで七月十五日までに姓名、住所、勤務先の名称と所在地及び受講講習名を明記して東京都文京区大塚町、お茶の水女子大学附屬幼稚園内日本幼稚園協會講習會係宛お申込み下さい

（注意）

○本講習は幼稚園教諭の実力養成を目的としたもので単位の修得にはなりません。
○運動に適する服装のこと。

昭和二十六年七月

日本幼稚園協會

東京都文京区大塚町
お茶の水女子大学附屬幼稚園内

夏の自然観察



お茶の水女子大學
附屬小學 校主事

堀

七

藏

一、自然觀察指導の要領

子供たちが遊んでいる間にいろいろの質問をする。それにはこれは何か、この木は何か、この花は何とのかというように、専ら事物の名称を尋ねる問が多い。これらの問に対しては成るべく正しく答えることが大切である。しかし、一の草花の名称でも、また虫類の名前でも、悉く知つてゐることは容易でない。植物分類学の大家ならばいざ知らず、吾には、路傍の雑草の名称を悉く知つてゐることが出来ない。花壇に栽培せられてゐる草花でも畑に作つてある野菜類でもその名称を満足に知つてゐる人は少い。それで、コムストツク氏は、その著、ハンドブックオブネーチュアスタデイにおいて子供たちの問に対して、「私は知らない」と、はつきり言切ることが出来なくては、ネーチュアスタデイのよい先生ではない。子供の問に対して、ごまかしたり甚だしきは

叱責するような態度を示すことはもつての外である。正直に、「私は知らない。いつしよに調べましょう。きつと面白い事が見つかるでしょう」と、子供とともに自然觀察をなすようにせねばならない云々と説明している。ことに、子供たちがどんな形か、どんな色光沢があるか、いくつあるか、どの位の長さがあるかなど、自然物や自然現象の状態についての問には、知つていても答えないがよい。そしてなるべく子供たちが、その目を働かし、その耳を使つて、その五官によつて、またその手足を動かして觀察するように誘導するのが最もよい自然觀察である。また、子供たちはさかんに「どうしてか」という問を連発するが、その大部分は答えられないものである。吾々が、答えられないだけに止まらず、現代の自然科学でも子供の疑問の大部分に対して明白な解答を与えてることが出来ない。かりに、その問に対して解答を与えても、子供たちには理解出来ないのが普通である。それで、子

供たちの「どうしてか」の問に對しても、答えない方がよい。半解の知識を与えることは害のみあつて、何等の利益がない。寧ろ、「さあどうしてでしょう」と、考えるに必要な事實を観察させるように導くがよい。

二、夏の虫いろく

(1) は、え。夏の虫にはいろいろある。かとは、えと、のみは家の中でわれわれをなやますもの。いずれも、わくという。しかし、は、えは卵をうみ、その卵がかえつてうじ、虫となり、さなぎになつては、えとなる。たゞ卵がすきとおつていて小さいので(長さ二耗位のバナ、形)気がつかず、十時間位でかえつた、うじは不潔なものをたべて四日位で土の中でさなぎとなる。そして四五日すると、からをやぶつては、えとなるのである。普通は、えはごみためや便所でわくと誤解せられている。は、えにはいろいろの種類がある。い、え、ば、え、きん、ば、えが普通のもので、いずれも食物にとまつてなめるようにしている。気をつけて、は、えの口を見ると、先が平たくてのびちぢみが出るようになつていて、いろいろなものを吸う。また、は、えが止まつているところを見ると、前あしを合せておがむようにし、また羽をこすつてゐる。これは足についたごみをとりにし、また羽をきれいにするのである。は、えのはねは二枚しかない。後ばねにあたるところに小さな棒のような形をしたものがついている。これとぶとき調子をとるのである。一匹のは、えは

体の表面に四百万のバイキンを、また口には二千八百万のバイキンを持つてゐるという。は、えはまたチブス、コレラ、エキリ、セキリなどのバイキンを運ぶ。これらの病人の大便の上を歩いた足でわれわれの食物の上にとまるから、伝染病の多くはは、えによつてひろがる。それでは、えが食物にとまらないように、またねむつてゐる赤ちやんの顔などにとまらないようにするとともに、は、えを退治することが大切である。どんな方法では、え退治するのがよいか。

(2) ぼう、ふらとか。くさつた水からか、わくというのが誤である。お池の水をガラス瓶の中に入れて、血を吸つたかをポット形をして互にくつついてゐる。しかし次の日には卵がばらばらになり、二三日後には小さなぼう、ふらになる。またお池の水でも、溜り水をガラス瓶にくみとると、大抵ぼう、ふらがある。ぼう、ふらは水中にすみ、黒茶色で、はねも足もなく、体をまげたりのばしたりして水の中を泳ぐ。「ぼう、ふら」やかになるまでの浮き沈み」という句がある。ときどき水面に浮んで空気を吸う。若いぼう、ふらは頭が小さく、胸の幅はやゝ広く、腹はほそ長くて、いくつかの節からなり、体の後端には二本の管がある。その一本で空気を吸い、他の一本からふんを出す。それで水面にうかんだときは空気を吸うくたを水面に出している。もし水面に油を一てきたらしておくと、ぼう、ふらは呼吸が出来なくて皆死ぬ。ぼう、ふらの退治は

この法によるか、金魚や鯉などにたべさせるがよい。ぼうぶらは水の中にまじつているくさつた物をたべて大きくなり、十分成長すると、胸の大きなおにぼうぶらになる。このおにぼうぶらは、胸の上側に二本の管があつて、これで空気を吸う。おにぼうぶらは腹を前後に動かして泳ぎ、水面に出て空気を吸うが、食物はとらない。おにぼうぶらはかのさなぎで、四、五日するとぬけ出してかになる。そのときに、さなぎは水面にうかんでいて、背中がやぶれてかになる。ぬけかわつたかは、しばらく、水の上にとまつていて、羽がしつかりするのをまつてとび立つて行く。

かの頭は小さく、胸は太く、腹は細長い。頭には左右に一つずつ大きな眼がある。頭の前方には二本のひげがある。ひげには多くの細かい毛がある。この毛はめすでは短く、おすでは長いから、すぐ、めすおすの見わけがつく。頭の下側には、細長い管のような口がある。また胸の上側には二枚のうすいはねがある。これは前ばねで、その後方には後ばねのかわりに、二つの小さいしやくし形のものがある。胸の下側には、六本の大へん細い足がある。かは昼間は暗いところにかくれ、夕方からさかんにとび廻り、室内に入つて来て人の血を吸う。血を吸うかはすべてめすで、おすは血を吸わない。かにさくられたところがかゆいのは、かがかくちばしをさしこんで血を吸うとき、つばを出して血にまぜて吸うので、かのつばが注射されるからである。

かもしろいろいる。一ばん、普通にいるのは、あかいえか。このかはおもに夜、活動するが、その前、午後四時頃からやぶかが室内に入つて来る。やぶかには黒白のしだが足や腹にあり、草木のしげつているところにいる。しろすじやぶかは背中に白いたてのすじがあり、さくれると、とてもかゆい。かには血を吸うとき、マラリヤをつたえるもの、また日本脳炎をつたえるものがある。マラリヤをうつすかはふつうのかに似ているが、羽にはん点があり、物にとまるとき、頭を物に近づけ腹端を遠ざけて体をなよめにしてとまる。普通のかは体を物とほぼ平行にしてとまるから、すぐ区別が出来る。(3)夏の虫にはほたる、とんぼ、せみ、きりぎりすなどがある。ほたるは光を出すので、誰一人知らぬものがない。しかし何からほたるが出るか、ほたるはどうして光るのか、ほたるは、昼間は草の間にかくれていて、夜になると、出てきて水辺を飛びながら光を出す。ほたるをそうつとつかまえて、観察して見よう。頭には大きい二つの眼玉と細長い二本の角とかわいゝ口とがある。運動しているときには角を前に突き出してさかんに動かしているが、ちよつとでもさわると、すぐ引きこめて外からは見られなくなる。胸には前、中、後の三節があり、背の方から見て、赤く色のついているところが前胸である。有名な芭蕉の句に「屏見れば首すじ赤きほたるかな」というのがある。この赤いのは、首でなく、胸のところで、胸の腹面に三対の足がつい

ている。羽にはかたい上羽（前翅）とうすい下羽（後翅）があり、ほたるはこれによつて飛びまわる。光の出るところは、腹の一ばんはしになり、めすは一節おすは二節ある。屋間は灰白黄色であるが、夜になるとよく光る。おすは体は小さいが、光るところが一節多いので、光が強い。

普通に見られるほたるには、へいけほたるとげんじほたるとある。げんじほたるは大きく、へいけほたるは小さく、赤い胸の中央に十字形をした黒いまだらがある。どちらのほたるがよく光るか。

げんじほたるは一匹で五百個ぐらいの卵をうむ。その卵は○・五ミリぐらいで、やつと目で見えるほどである。うす黄色をしていて、水ぎわの草やこけなどにうみつけられていることが多い。卵も親虫と同じように光る。この卵から四週間くらいたつと幼虫が出て来る。幼虫は十三節あつて、やゝ平たい毛むしのように、これがほたるの親虫になると思われないほどである。尾部の兩側に光るところがついている。自由には水底を歩き廻つてかわにななどの巻貝をとらえてたべる。ほたるの幼虫は、十一月に入ると、水底で冬をすごし、よく年の三月頃になると、また動き出して食物をたべる。そして雨の夜や曇つた晩に川の土手などの土の中にもぐりこんでさなぎになる。このさなぎも光る。さなぎは約一ヶ月くらいたつと脱皮して親虫となる。親虫は六月頃から七八月にかけて盛んにとび廻り、卵をうむと死ぬ。

ほたるは卵、幼虫、さなぎまで光る面白い虫である。その光り方を見ると、親虫は光が弱くなつたり強くなつたりたえず変る。卵はじつと見ていても光らないが、音をさせたり飼育ばちのへりをたゞいたり、足音をさせると光る。どうして光るのか。また何のために光るのか。

(4) せみととんぼ 夏の虫で一番やかましいのはせみ。いろいろのせみを集めて、どんなに鳴くか、どこで鳴くか、どんなに体がちがうか、研究すると面白い。にいにいせみ、あぶらせみ、つくつくほうしにみんみんせみ、夕方になくひぐらし、夜明けになくくませみなどいろいろいる。

せみはおすだけが鳴いてめすは鳴かない。それで、せみの腹を見ると、めすとおすとちがつている。おすには発声器があり、めすには産卵管がある。おすの胸と腹との間にあるうすいまくの中に複雑な発声器官である。太いすじが鼓膜につづいていて、この鼓膜の振動が腹の中の空になつた共鳴室でさらに大きくなるように出来ているから大きな声が出る。せみの卵は木の皮の中に入りこまれる。卵から出た幼虫は、地中にもぐりこみ、何年も地中で生活する。幼虫は羽がなく、六本の足で地中をほり進んで木の根から汗を吸つて大きくなる。何年かの後に十分成長すると、さなぎは地中から出て木の上のほり、皮をぬいでせみになる。夏の夕方から朝にかけてせみがからよりぬけ出るのを見つけたらスケッチすると面白い。

とんぼは夏になると、たくさん出る。おにやんま、ぎんやんま、しおからとんぼ、むぎわらとんぼ（しおからとんぼのめす）しおやとんぼ、かわとんぼ、いととんぼなどいろいろいる。「とんぼのかおの大方目玉かな」という句がある。とんぼの目玉はどんなになつてゐるか、とんぼの口はどんなになつてゐるか。せみとどんなところがちがうか。とんぼは何をたべるか、とんぼの胸はどんなか、とんぼの足が何本あるか、どんなになつてゐるか。とんぼの羽はどんなになつてゐるか、とまるときはねをどんなにするか。とぶとき羽をどんなにするか。とんぼの腹はいく節あるか、どんなになつてゐるか。尾の先はどんなになつてゐるか。気をつけてよく見るといろいろ面白いことがおつながりになつたとんぼを見てゐるとわかる。水面や水草に卵をうみつけるようすが分る。とんぼの幼虫はやごという。やごは水中にいて、おたまじやくしやぼうふらなどをたべる。十分に成長すると水辺の草や棒くいなどにぼつて脱皮してとんぼとなる。

三、夏の水邊と海辺

(1) 夏のあついで、池や小川の岸に、座して水中を観察するとまことに面白い。たにし、になのような巻貝が軟い土の上をはつてゐるであらう。水面に浮かんでゐる草の葉にも巻貝がついてゐるであらう。水中深いところでじみ貝などは、水の出入する管を出してゐるであらう。また小石のあるところには川えびの類が面白く泳いでゐるであらう。またかえるが急に水中にとび込むかも知れない。どんなに泳ぐか。或は、めだかやはやなどが群をなして通るであらう。またどじょうやなますが土の上をのそのそはつてゐるであらう。それから種々の水中にゐる虫がいろいろの活動をなしてゐるであらう。やごは土の上をはつて餌をあさつてゐる。いもりも、のそのそはつてゐるに相違ない。あめんぼうは長い脚で水面に浮んで水上を滑走する。みすすまは水面を面白い位に速く泳ぎまわる。まつもむしは仰向けになつて泳ぎ、水みのむし、がむしなど、いろいろな活動をなしてゐる。どれほど多くの水虫を見つけることができるか。

池や小川の中には、いろいろの水草が生えてゐる。おもたか、かわほね、ひし、じゆんさい、うきくさ、きんぎよも、あふさもなどいろいろある。

(2) 池や小川でとつた虫でも魚でも飼育して観察すると、いろいろのことがわかる。それには、蓄電池に使うバツトが最もよい。しかしお菓子などを入れてあつたガラス瓶や小さな虫を飼うのにはコップでもよい。

水族器には動物はなるべく少く、水草はたくさん入れて、うまく平均するように工夫するがよい。それで水族器の底にきれいな砂又は小石を五センチばかりの厚さに入れる。そして、水草の根を砂の中に入れ、小石でとめておく。うきくさならば水を入れてその上に浮べておけばよい。水を入れるときは、草の根が洗い出されないように、手の上に水を静かに注いで流しこむようにするとよい。水族器には池の水か井戸水がよい。水道の水には消毒薬が入っているから使わないがよい。しかし、どの水でも、他の器に暫くくんでおいて水族器と同一の温度になつたものを加えるがよい。動物と植物とがつり合っているときは水を取りかえぬがよい。ガラスの面をいつもきれいに保つために巻貝を入れるとよい。巻貝はガラス面をはつてガラスにつくもきれいに食べて常にガラスの面をきれいにしてくれる。一ばんあとから魚や虫を入れる。多く入れないようにする。めだかや金魚とや、ごやいもり、またがむしなどを一しよに入れてはいけない。平均のとれた水族器は年に二回掃除すればよい。岩や砂、貝がらなど中のものを全部とり出して熱い塩水で洗う。また水族器のガラスは塩でみがく。

(3) 水族器で金魚を飼うときには、えびや亀やけんごろうなどを共に入れて置いてはならぬ。是等のものは金魚を食しまた害をする。然しおたまじやくしは入れて置くがよい。すると水族器に生ずる緑色の粘りけある物を食つてしまう。水

族器は夏ならば、北又は東窓の日かげのところに置くがよい。冬ならば日当りのところに置かねばならない。金魚には餌を多く与えてはならぬ。毎朝一定の時刻に金魚が忽ち食つくす位な分量を与えるがよい。パン屑、かつをおしのけずりくすなどが最もよい。餌を多く与えて食のこすようでは食物がくさつてよくない。

金魚をガラス器で水草を入れないで飼うときには、少くとも一週二回、水を取替えるがよい。金魚が水面でパクパクするならば水中に空気が不足して困つているのであるから、水を取替えるか、その水をくみ出して五六十糶の所から注ぎ入れて水に空気をとかしこまねばならぬ。それで最もよいのは、二個のガラス鉢を準備し一週二回、一つのガラス器からよい水を入れてある他のガラス器にうつすがよい。しかしその水はしばらく放置して元のガラス器と同温度であるようにせねばならない。

金魚の観察によつて魚類の生活を十分研究する事が出来てまことに面白い。

いしかめを飼育するには、水族器に僅かに水を入れ、こうらほすことが出来るように必ず石を入れてその上に出られるようにしておかねばならぬ。かめは魚類と異なり、空気を鼻孔から呼吸するものである。えさとしては、時々みみず、おたまじやくし、どじょうなどを与えるがよい。かめはたいへん面白い動物であるから十分観察するとよい。

(4) 海辺にすむ人は幸である。また夏、海辺に行くことが出来れば、いろいろ海についての自然観察が出来る。海面には毎日波がある。波が海岸に押しよせてはくだけ、くだけてはまた押寄せる。そしてしおがだんだん満ちてくる時があり、まただんだんに引いてひきしおになる時がある。もし海岸で月の出を注意すると、月の出の時刻が毎夜約五十分ずつおくれるにつれて、みちしおも毎日五十分ずつおくれる。そしてみちしおが一日に二回ある。どうしてか。しおが引いたとき、海岸の水溜などをあさるといろいろ面白い生物が見つかる。ひとでは岩や海藻の間などにいる。うごの先きに小さな赤い目がある。各のうごには小さな脚が二列に並んでいて、その先きが吸盤になつてゐる。この吸盤が岩に吸付き動いて更に先方に吸付く。ひとでは蛤やかきなどの肉を食して生きてゐる。

うごには海中の岩の間にすむ。体はやゝひらたい球形のかたい殻に被われている。その表面に多く細長いかたいとげがある。とげに交つて多くの糸のような細い足がある。足はたいへん、やわらかく伸縮自在でその先きに吸盤がある。うごはこの足で岩など吸ついて止まり、又一方の足をのばしてその先端で吸ついた後、これを縮めて体をその方に引寄せ、しずかに運動する。うごにはその下面の中央に口があり、口には五つの歯があつて海藻や小動物などを食う。

そのほか、海中の岩の間などにすむまご、海中の岩など

に固着し甚だ美しく菊花の開いたような、いそぎんちやく、(ひきしおで水面上に出たときは甚だしく縮んで山形となりその中に指の如きものをみな包み込んでいる)、海中にふわりふわりとうかんでいろいろくらげなどいろいろ面白いものがある。なお海岸では、かに、やどかり、うみうし、ふなむしなど面白い動物が沢山いる。またいろいろのきれいな貝がたくさんとれる。

(5) 海のおれた翌日、海岸に行くと、いろいろの海藻が砂浜に打上げられてゐるから採集に便宜である。採集した海藻は変色しない中に、まみずを入れた洗面器などに一つ一つ入れてよくひろげる。このときガラスの板を水中におき、その上でひろげるとよい。そして画用紙をガラス板の上、海藻の下に入れてよく海藻の形を整え、ガラス板を静かに水中から水平に持上げて水を板の四方にたらし、板をのぞいて新聞紙の上に載せて乾かす。かわくとき海藻が縮み易いから、うすい布片で海藻をおおい、その上に新聞紙を載せ幾枚か重ねて圧石をするときよい。海藻は水分に富むから、初めは一日に二回も新聞紙を取替える位がよい。海藻は糊気があるから、よく画用紙に附着する。よくかわいたときレッテルを貼り、採集の年月日、場所、名称等を記入すれば立派な海藻標本が出来来る。海藻にはいろいろある。あおさ、あおのり、みる、はじのり、もずく、こんぶ、わかめ、あらめ、ほんだわら、ひじき、あまのり、てんぐさ、とさかのり、とりのあし、つもの

また、まくり、ふのり、かばのり、すぎのり、かいのり、などいろいろある。

(6) 海浜に小高い砂山が並んでいる。この山を砂丘という。海から陸に吹きよせる強い風のために砂浜の砂粒がふきとばされて小高い丘となつたものである。この砂丘には、はまぼろいふう、こうぼろいむき、けがものはし、はまぐるま、はまひら、はまにがな、はまえんどうなど海岸特有の植物がはえてゐる。

(7) 泳ぎとボートこぎ、和船とボート、それから帆かけ船などこぎ方は中々六ヶしい。それでボートや和船をこぐ機会があれば実地について教授をうけ、練習するがよい。ボートをこぐことを学ぶ前に、泳ぎ方を練習することが一層肝要である。海岸で生活することが出来れば、必ず水泳を学び、ボートや和船のこぎ方を練習するがよい。しかし大人の指導者なしに勝手に海水に入つたりボートをこぐようなことをしてはならない。危険なことは不意に起るものである。

人体の比重は、水と大差がない。それで人体が水中に浮ぶことはむずかしくはない。たゞ人間は頭部が割合に重いから頭を水上に保ち呼吸することが困難なのである。背泳ぎが苦しくなく、また軽い淡水中よりも重い海水の游泳が容易である。犬などが上手におよぐのは頭部が軽く、水上に浮んで呼吸することが容易だからである。水泳用のうきぶくろ(ぶいという)を身につけると人体の重さは殆どかわらず、排除す

る水量が多くなるから泳ぎが容易である。

魚類は筋肉の作用によつて体中のうきぶくろを収縮させる。と魚全体の体積が自ら縮少して排水量を減ずるから沈む。また筋肉をゆるめ、うきぶくろとともに体を膨大すると排水量が増して浮かぶのである。

ボートでも和船でも水中を泳ぐ魚の形を真似たものである。水中にある物はその排除する水の目方だけ、その目方が減ずる。いいかえると、水中にある物体は、その排除する水の目方に相当する浮力をうける。それで、物体はその重量以上の水を排除し得るときは、水上に浮ぶ。お茶碗をおお向けして水面におくと浮ぶ。しかし茶碗を横にして水中に入れると沈む。船は木や鉄で出来ているが、その重量の割合に体積を大きくし、水を排除することを多くしてあるから自由に水面に浮ぶ。しかしボートなどをこぐとき、一方にだけ人が多く乗ると、船は傾いて沈むことがある。用心せねばならぬ。

ボートとふな・こいなどの魚類のからだと比較すると面白い。頭がとがり、胴がうすく平たいほど水の抵抗が少いので、魚の進行が速い。ボートも船幅の広いものよりも狭い方が水の抵抗が少いので、速力が出る。それで、競漕用のボートは幅が狭い。その代りてんぶくし易い。ボートのオールは魚の胸ひれ、腹ひれなどに相当しかじは尾ひれに相当する。和船のろは魚のしりから尾ひれにかけての働をする。ボートのかじを右にひくと、ボートは右へまがるか、左へまがるか。

ボートの左側だけオールをこぐとボートはどうなるか。

(8) 海水の塩分 海水の比重は一・〇二六で、水より重い。大洋の水は千分中約三十五の塩分を含み、その中、約二十八は食塩である。瀬戸内海の海水はこれよりも少し少ない。川水の入込むところの海水は一層うすい。海水をくんで来て、布片でこしたものを洗面器に入れ、天日にほして置く。すると海水は蒸発して洗面器のうちがわに塩が結晶して附着している。

海水より塩を製するには、海浜に細かい砂をしいた畑の如きもの(塩田という)を設ける。そしてたてよこに通つていゝ溝から海水を導き入れ、砂の中にしみこませ、太陽の熱によつてその水分を蒸発させる。水分が蒸発し去ると、食塩は砂にまざつてのこるから砂と共にかき集め、少量の海水にとかして濃い塩水にする。次にこの塩水を浅い釜に入れ、煮てその水分を蒸発させ、こゝに出来た食塩の結晶をとる。海岸に行き、塩田を見ることが出来ることによい。

四、夏の空

(1) 我が国では、毎年夏から秋にかけて必ず颱風が何回かやつて来る。海岸で波が高くなり、うねりが大きくなると、颱風が近づくるし。新聞に出る天気図で、南洋の方に幾重にも丸が重ねてくれば、それが颱風である。この丸の中に、数が書いてある。これは颱風の気圧を示す数字、ふつうの気

圧は一〇一三ミリバールであるから、一〇〇〇、九五〇、九〇〇ミリバールと数字が小さくなるほど、大きな颱風である。九六〇ミリバール以下になると、大それた害をあたえる。

颱風は大きな風のうずでこれをこまにたとえたと、心棒のところを颱風の中心である。この中心の動く速度を颱風の速度といい、こまの回轉しているところの速度は風速である。気象特報をきくとき、この颱風の速度と風速とを間違えないようにせねばならぬ。颱風の速度は颱風が、琉球附近に来るまでは、毎時二十軒くらいで、汽船と大体、同じくらいの速度である。しかし内地に近づくと、三十軒、四十軒と増して行く。颱風の中心から四〇〇軒くらいまでは暴風雨になる。

颱風は低気圧の名称で、風の種類ではない。颱風が来ると暴風雨になるのが常である。風は風速によつて、軟風・強風・烈風・暴風などの区別があり、吹く方向によつて東風・南風・西風・北風などいい、また、海風・山風・川風・谷風などの種類がある。また、風の名称は四季によつて差がある。

春に東風、夏に南風、秋に野分、冬に木枯などという。我が国は一般に夏期には南東風、冬期には北西風が多い。幼時のときから、風について注意して観察させるがよい。

(2) 夏の雲。空をあい、雲が少いからあすのお天気はだいじようぶ晴だ」とか、「雲が高いから、雨が降らないらしい。」雲が南の方に行くから天氣がよくなるだろう。」などという。雲の量とか雲の動き方、雲の形、雲の高さなどを

觀察して、天気との關係について研究するとよい。さて雲には、いろいろの種類がある。

(一) 層雲(きりぐも) 低くたれ下つた灰色で、形のないう雲。霧と同じようだが、地面から少しはなれてるので区別がつく。それできりぐもといひ、雲のうちで一番低い雲で、雨もよりのとき、小山の峯をかくしたりするし、又高い山の腹にたなのようにかゝるからたな雲ともいふ。

(二) 亂雲(あまぐも) 雨や雪を降らすのがこの亂雲。暗い色をした雲で、どこを見ても同じような厚い雲の層をしている。この雲がたれ下つて来るとポツポツと雨が降る。風の強い日には、ちぎれちぎれになつて黒雲のかたまりが勢よく空をとんで行く。

(三) 積雲(むくむくぐも) この雲は頂の方が円くて白い綿をつみ重ねたようにむくむくしているが、下の方は平である。夏の天気のない午後などによく見られる雲である。この雲が大陽と反対の方向に出ると、雲全体が美しくかゞやく。またこの雲の後に大陽があるときは、雲のへりが明かるく光り、中央の方は暗い色をしていて、何となくおごそかな光景となる。

(四) 積亂雲(かみなりぐも) もし積雲の下部が暗い色に変わり、頂の方がむくむくと更に空へのぼつて行くと、むくむく雲とあま雲とが一しよになつて雷雲となる。白い頂がのぼつて行つてくずれ出すと、底の暗い部分からわか雨を降らす。

す。そのとき雷がなつたりいなびかりが光つたり、(遠いので電光だけ見えて雷鳴がきこえない)する。それで夕立雲ともいふ。

(五) 層積雲(くろぐも) 積雲と層雲とが一しよになると、形はうすまきのような大きなかたまりになり、色は、にぶい灰色になる。今にも雨を降らしそうに見えるけれども、雨を落さないのが普通である。

(六) 卷雲(はげぐも) 八千米以上も高いところに来る雲である。青い空にはけで一筆二筆くらい、かるく描いたように、うすいすじのような白雲が浮んでいるのが卷雲である。この卷雲の動く方向によつて天気の変ることが分かる。北の方から動いて来るときには好天気がつゞき、南の方から動いて来るときには天氣が悪くなる。

(七) 卷層雲(うすぐも) はげぐもが空一面にうすぎぬをかけたようにおおつてしまつたとき、これを卷層雲(うすぐも)といふ。

(八) 卷積雲(かわらぐも) かげのない白い小さなかたまりをした雲が屋根のかわらのように、また魚のうろこのようにならんで現われる雲をいふ。

(九) 積卷雲(おおかわらぐも) かわらぐもに似ているが、形が大きく、その上、色は白又は灰色で、その一部分にかけがある。牧場に羊をはなしてあるように見えるので、「ひつじぐも」ともいふ。

(一〇) 層巻雲(まきぐも)うす黒い灰色又はねずみ色のま
くをひろげたように空一面をおおつてしまふ雲である。雨の
降る前に現われる雲で、雨雲に似ているが雲の厚さがうす
から日や月の光がかすかにすいて見える。

(三) 夏の空に著しいのは虹。夕立があがつたあとにはつき
りした虹がよくあらわれる。一つだけでなく二重に出ること
もある。この二つの虹がどんなになちがつているか。また、夏
に多いかみなりやいなびかり、これらについてもよく観察す
ると面白いことが多い。

五、夏の草花など

(一) 夏咲く草花がまことに多い。(イ) あさがお、ひるが
おは誰でもよく知つている。この兩者はどこがちがうか。つ
るではどこがちがうか、また、葉はどんなになちがつていて、花
はどうちがうか、あさがおには栽培変種が多く、葉花の形態
がいろいろである。あさがおは一年生であるが、ひるがおは
所々に自生する多年生草本である。

(ロ) つきみぐさ(月見草)とまつよいぐさ。いずれも、夏
開く花で、大へんよく似ている。月見草は北アメリカの原
産、まつよいぐさは南アメリカの原産という。ともに二年生
草本で、前者は高さ一メートル半位後者は高さ一メートル位
になる。葉はどちらも互生するが、その形は多少ちがう、月
見草の葉は長卵形で、まつよいぐさの葉は披針形である。花

は大形で黄色の四花べんを有し、月見草は日没の頃から開
き、まつよいぐさは夕刻に至つて開く。とにかく、月見草と
まつよいぐさ、どちらでもよく観ると面白いことが見つ
かる。

(ハ) ひまわり。一名ひまわり、にちりん草ともいう。

北米メキシコ原産の一年生草本で、高さ二メートル余に達す
る。葉は互生し大きく、卵形で、ふちにぎざぎざがあり、葉
面はざらざらしている。花は黄色で、大形の頭状花序に排列
している。周囲の花は舌状花冠を有し中部の花は角状花冠
で、沢山の花が平な花托について大輪の一の花のようになつ
ている。このひまわりは日光に向つて傾く性があるが、一日
の中に、朝は東に、日中は南に、夕方には西に傾くというの
ではない。氣をつけて観察すると面白い。ことがわかる。

(ニ) はるしやぎくときくいも。はるしやぎくは広く庭園に
栽培せられる一年生草本或は二年生草本で高さ二メートル位
に達する。莖も葉もすべつく、下部の葉は二回羽状複葉で、
細長い小葉でできてゐる。花は頭状花序に排列し、周囲の花
は舌状花冠、中部の花は紫褐色の筒状花冠である。舌状花冠
は通常、上部が黄色で、下部が紫褐色であるが、たまには全
部紫褐色の舌状花冠の花もある。まつばはるしやぎく、お
おはるしやぎく(コスモス)などもはるしやぎくと比べて見る
と面白い。きくいもは北アメリカ原産の多年生草本で、地下
に塊茎を有し、二メートル位の高さになる。花は黄色で、頭

状花序に排列し、周囲の花は舌状花冠中部の花は筒状花冠である。

(ホ) まつばぼたん、まつばぎく。この二者はどこがちがうだろう。まつばぼたんは南アメリカ原産の一年生草本で、高さ二十糎に達し、茎も葉もともに肉質であり、葉は互生し線形で厚く、そのもとに毛がある。花は紫、紅、黄、白色等の美麗な花卉がある。まつばぎくはアフリカ喜望峯原産の常緑植物で、やや灌木状をなしている。葉は細長く、肉質で、すべすべしている。花は紫紅色で、多数の花卉を有し、その外形がやゝ菊の花に似ている。

(ハ) ダーリヤ(てんじくぼたん)は北米メキシコ原産の多年生草本で、高さ一メートル半位になる。葉は羽状複葉で、卵形の小葉より成る。花は美麗で種々の色を有し、大きな頭状花序に排列する。周囲の花は舌状花冠を有し、中部の花は筒状花冠を具える。またボンボンダーリヤのように、全部の花が舌状花冠を有するものもある。

(ト) カンナとグラジオラス、またけしとひなげしなど庭園に栽培せられ、夏咲く草花が多いから、いろいろと観察するがよい。

(2) 夏の畑

(イ) なすとトマト。「親の意見となすびの花は千に一つもむだがない。」なすの花とトマトの花、また、じやがたらいもの花などを比べて見ると面白い。また、いぬほづきの花も葉

もよくなすに似ているが、これは有毒植物であるから注意せねばならない。トマト(あかなす)は南米ペルーの原産であるという。また、とうがらし、そらみつらがらしなどをなすと比べて見るがよい。ほいすきは南部ヨーロッパの原産、ぜんなりほいすきは北アメリカの原産というが、いずれもなすによく似た花が咲き、萼が果実とともに成長して赤くなる。

(ロ) きうりと、かぼちや、とうなす(一名かぼちや)きうり(東印度原産)まくわうり(アジア及びアフリカの熱帯地方に自生するという)しろうり、すいか(南部アフリカに自生するという)かもうり、ひょうたん、ゆうがお、へらまほどのつるや葉、花についてよく比べて見ると面白い。いすれも雄花と雌花となつて、ともに黄色の合弁花冠を有する。雄花と雌花がどんなにちがつているか。花にどんな虫が多く来るか。雌花はどんな枝によくつくかなど、いろいろに観察すると面白い。

保育應答研究会御案内

日時 七月十四日(土)午後一時半より

会場 フレーベル館講堂

講師 倉橋惣三先生

みなさまの御持ちよりなる保育の突発問題につき、倉橋先生を中心とした出席者一同で互に研究しあう新しい企劃です。

來會陋意 會費不要



アメリカ童話から 11

お友だち

松原至大

ピーター君はお父さんのお仕ごとがお休みの日を、森のお家で送ることになりました。久しぶりで行く森のお家、ピーター君はもちろんのこと、お父さんもお母さんもいそいそとお支度をなさいました。

森は、とても大きな森でした。小さなピーター君が、一層小さくでもなつたように思わせるほどでした。

「お家から離れてはいけませんよ。玄關の近くで遊んでいるのですよ。」と、お母さんがおっしゃいました。この森に来て、お母さんも御自分が小さくなつたとお思ひになつたのかも知れません。

ピーター君はお母さんのお言葉を守つて、玄關の階段の一番先のところに、ちよこなんと腰をかけて、外を眺めて居ました。階段の左側にはふとい薪がきれいに積んでありました。そのうちに、

「ブルブ、ブルルリツブ、ブルルルリツブ。」という声が聞こえてきました。ピーター君の声などよりは、すつとすつと小さな声でした。あたりを見まわすと、同じように切つた薪の一番上のところに、小さな動物がいました。脊中に縞があつて、小さな耳をびくびく立てて、羽根のような尾を振っていました。

「おや、君かいと。」ピーター君は思わす首をさしのべました。

小さな動物は、片々の耳をぴんと立てました。

「ブルブ、ブルルブ、ブルルルブ。」と言つて、ピーター君の方へそろそろと寄つてきました。そこへお母さんがピーター君を呼びに来ましたので、その動物はまた薪の間にかくれてしまいました。

その日から毎朝ピーター君が、玄関の階段のところに一人でいると、このチツビーが現れてきて、お話をしました。そのうちにピーター君は、トーストのかけらをやるようになりました。チツビーはそれを頼いつばいに押しこんで、薪の間にかけて行きました。チツビーは、どんなに雷のはげしい時でも、風が強く吹く日でも、一日として来ない日はありませんでした。このチツビーがこわいのは、自分が住んでいる薪のところに時々出てくる大人おとなの足だけでした。なにかその薪の下に、大切なものでもかくしているようでした。

毎朝お父さんはお食事の前に、その薪を持つて行つて、お部屋のストーブにお入れになりました。それでチツビーのお家は、毎朝小さくなりました。とうとう薪が四本しが、残らなくなつてしまいました。ピーター君は、チツビーの困つている様子が、目に見えるのでした。その日の朝は、いつも元気に聞こえる「ブルルプ、ブルルリップ。」も聞こえませんでした。そのかわりに、チツビーが言ったのは、泣くような「ウウ、ウーラ、ウーラ。」でありました。そう言いながら、残つた薪まきのぐりをかけ廻つていたのでした。ちようどその薪をとりに来る大きな足を、見張つてもいるように。

けれどその時、ピーター君はそつとチツビーに教えてあげました。

「大丈夫だよ。明日の朝はね、ぼくたちもう帰るんだから。朝が早いので、薪の用はないんだよ。もしあつたつて、ぼくが君のお家をこわさせやしないから。」

翌朝ピーター君は、早く起きました。そしてお母さんとお父さんのコートを、いつでも着られるように、用意しました。自分はお顔を洗うと、すぐにコートを着ました。

「今朝もまだ寒いね。火をもやそうか。」とお父さんがおっしゃいました。ピーター君はこぞとばかりに「寒くありません。お父さん、お寒ければコートをお着になれば。ぼくのように。」と答えました。

「でも、ピーターちゃん、朝のお食事の前には、いつも暖ま。たのですもの。」とお母さんがおっしゃいました。

「だめですよ、お母さん。外へ出て、ボール投げでもしたら、暖かくなりますよ。」ピーター君がいつもと変つたことを言いますのでお母さんは、

「まあ、どうなさったの。」と、お聞きになりました。

「だつて、チツビーがお家がなくなりかけているんだもの。」ピーター君は一生懸命です。

「まあ、チツビーのことなの。それだつたら、またどこかにお家を探しますよ。私たちも、チツプマンク（縞のあ
る栗鼠のこと、北アメリカにたくさんおりますよ。）のように、どこにでもお家が作れたら、よいでしょうね。」

「だめですよ、お母さん。ぼく、約束をしたんですもの。」ピーター君は、まだ一生懸命です。

「そんなにあなたがおつしやるのなら、私たち、早くお食事をすませて、出発しましょうね。」とお母さんがおつしやいました。

荷物が、自動車の中に運ばれました。やがてお家に、鍵がかけられました。お父さんは自動車の前のところに、水をお入れになりました。

「ぼく、すぐにもどつて来ますよ。」ピーター君はこう言つて、また玄関の階段のところへかけて行きました。そして四本の薪の一番下の横にある小さな穴に、トーストのかけらを入れてやりました。そこは、チツビーのお家の玄関なりました。

チツビーは、首を出して、あたりを眺めました。耳をぴんと立てて、鍵のかかつたお家の方を見ました。もう一つの耳で、自動車のそばに立つている大人の音を聞きました。

「ブルルル、ブルルルルルル」と、チツビーが始めました。穴の中にいるだれかに、話かけでもするように。

「ブルブ。」と、小さな声がいくつもいつしよになつて、中から答えました。そして四匹のチツプマンクの子供が、中から出て来ました。どの子もまじめな目をして、ピーター君を見てから、トーストのかけらを食べました。

「ああ、これかい、お前が大事に穴の中にかくしておいたのは。」と、ピーター君は思わず言いました。

「ブルブ、ブルブ、ブルブ。」と、またチツビーが言いました。

「ピーター、早くおいで。」お父さんが自動車の中で、お呼びになりました。ピーター君がかけて行くと、チツプマンクもみんな穴のお家にはいりました。（ハーリエト・バン女史の作による）

幼稚園保導研究協議會

(昭和二十五年実驗幼稚園発表會記録)

時 日 昭和二十六年三月十日
場 所 千代田区立淡路幼稚園

當日の發言者(イロハ順)

徳久孝(千代田区番町幼稚園) 豊田いと
(千代田区淡路町幼稚園) 風間又四郎(東
京都保健課) 高杉新作(千代田区淡路小学
校) 中村昇(千代田区小川町小学校) 中
村魁(東京都教育庁衛生課) 村越ヒデ
(東京都教育庁指導主事) 大竹武二(東京
都千代田区教育課長) 及川ふみ(お茶の水
女子大幼稚園) 大野巳之吉(東京都教育
庁指導主事) 黒沢得男(東京都教育庁指導
主事) 黒田新市(千代田区指導主事) 小
林操(港区南山幼稚園) 寺井政次(千代
田区淡路幼稚園) 桜井たか子(千代田区
千桜幼稚園) 山村きよ(東京都教育庁指導
主事) 菱沼太郎(千代田区淡路小学校)
森岡盛久(東京都教育庁指導主事) 巢山
淳子(千代田区淡路幼稚園)

他、千代田区立公立幼稚園々長

公立幼稚園教諭 其他約百名

黒澤 教育庁指導部長にかわつて一言御挨拶を申し上げます。二十五年実驗幼稚園をお引き下げさ
いまして当淡路幼稚園にまいりまして、本日私ははじ
めて幼稚園の実態にふれたわけであります。しかも不
完全な条件の下で立派な研究をなされた、これには相
当無理な努力をされた事と拝察いたします。そうして
今日拝見したような立派な成果を御しめ下さつた事
は都として全く感謝にたえないところで御座います。
これはひとり学校側の御協力というだけではない。区
当局の御理解、P・T・Aの御協力がある。これにも
あつく御礼申し上げねばならぬ。
私は今日の教育体系という点から見て、小学校から大
学までは制度としても、実際としてもある程度のとこ
ろに行つてゐると思う。しかしその前と、うしろが欠け
てゐるのではないかと思います。義務教育を終つてから
の職業教育というものと、小学校に入る前の教育とい
うものに大いに考えねばならぬ点がおおいではない
か。学校教育法が施行された事によつて幼稚園という
ものが、学校教育の体系の中に入つて来た。これは全
く劃期的なものであると考えます。しかしそれが實際
にどのように現れてゐるかという点になるとまことに
心細い。今日幼稚園教育の機会にめぐまれてゐるの

は、主として都市であつて、地方の農村に行けば、なかなかそんなものではない。この恩恵に浴しうるのは国民の一部分にすぎぬといふ。そういう意味から今後幼稚園の充実ということは大いに考えねばならぬ事と思ひます。生まれてから幼稚園に入るまでの組織的な保育という事について国をあげて真剣に考えねばならぬ。

私は郷里へかえる度びにいつも思うのですが、中学を出てからの青年の問題についても、昔は軍隊生活というものがあつて、それがよいかわるいかという点は別として、そこで一応組織的に訓練されるという機会があつた。しかし今はそんなものがないから、緊張とか責任感とかいう事が戦前よりも大分稀薄になつた。その結果として、夜な夜な町へ遊びに出て床屋にあつまつて下らぬ話をして時をすごすというよくな事になる。これが青年の将来にとつて決していゝはずはないと思うのです。同じようなことが小学校に入る前

の幼児についてもいえるではないか。幼児をどういふ風にしてそだてるかというよくなことは一向に進歩してゐない。十年一日の如く不合理で非衛生なことが平気で行われている。小学校に入る前に三年間幼稚園に入れるということは、こういう不合理な育て方をされてゐる幼児達には是非必要なことです。しかしその恩恵に浴しうるのは国民の一部でしかないのだからこれは国家の重大問題です。勿論金もかゝりましょう。しかしどうしても幼稚園教育というものはもつと充実させて行かなくてはならぬという事は、国民各自ももつと真剣に考えねばならぬ。

本日は研究発表という意味と、それから幼稚園教育に関心をもつておられる権威ある先生方が沢山お見えになつておられます。どうか十分に意をつくして御討議ねがいたいと思ひます。

幼児教育の二人の先達

大竹 今回淡路幼稚園が都から実験

学校として指定されたについて、本日はその研究発表がなされる事になりました。これは大いによるこばしい事だと思ひます。実験という事について、色々な問題がありましようが私が気がついた事を申し上げますと、幼稚園教諭の増員という問題、これは真剣に考えねばならぬ事だと思ひます。たとえばある先生が三ヶ月なり四ヶ月なりつゞいて欠勤する。その補充の問題が大変だ。小学校のように長期休養という制度があればいゝが、それがないために、補充の問題が非常にむづかしい。三人の先生の中一人休む。二人の中一人休むということになるとそれは非常に困る。この対策については緊急に何かの手を打たねばならぬと思ひます。

この機会に幼稚園という名称について愚見を申述べさしていただきませうが、何故幼稚園といつて幼稚学校、あるいは幼児学校としないのか。ガーデーといつてスクールといわないのか。

大体幼稚園、キンダーガルテンといふことを言い出したのはフレーベルだときいてをります。フレーベルはキンダーガルテンという言葉を考える時、相当なやんだという。当時の教育はどちらかといえば、新教育にたいする旧教育、いわば自由な教育に対して抑圧的な教育方針であつた。教師中心主義の教育思想であつた。そういう教育方針の下に可愛い、幼児をおいてよいのか。フレーベルは学校教育といふものの弊害を考えたという。それで靜かな山の中で瞑想に耽つていた時に、ふと、キンダーガルテン、幼稚園といふ名を思いついた。幼い生命を、木の若芽のような幼児達を、すくすくと伸ばして行く花園、ガーデンといふ事を考えた。それでシユール Schule といわないで、ガルテン Garten とした。こういう風に幼稚園教育といふものは、はじめから新教育的であつたのであります。フレーベルの前にもロバート・オーエンが学齡前の幼児の教育といふこと

を考えた。オーエンは教育者でもなく思想家といふのでもないが、ニユー・ラナークに紡績工場を経営して、作業能率を高めるためには、どうしても労働者の人格といふ事を考えないといかぬと確信した。そのためには教育が必要だが、大人を今更教育したつて、もう一定の型に出来上つてしまつているから大した効果はない。それよりも無垢の幼児、これを教育する事が最も効果的だと考えて、そのための施設をつくつた。そしてこれを性格形成学園とよんだといふますが、フレーベルの前に、實際上の必要からオーエンが、学齡前の幼児の教育機関といふことを考えたといふのは大いに考えさせられるところだと思ひます。

思想の基底にかえりみよ

大竹 日本ではじめて幼稚園を開いたのは、お茶の水だつたか、京都だつたか、そこら辺ですが、それは何か特権階級的なものであつたようです。

オーエンが考えたように、生産能率を上げるための基礎としてというように考えはなかつたように思う。

幼稚園といふものは托児所とは建前が違ふから、それによつて家庭の主婦の能率を上げる事に寄与するとか、教養獲得の協力をするとかといふ事は多く考えなくてもいふやうなものだが、幼児教育に対する二人の先達、フレーベルとオーエンの考え方をふり返つてみると、幼稚園と保育所との交流といふ事も将来の問題として考えていふではないかとも思ひます。

幼稚園については遊戯だとか、衛生管理だとかいふ面については大分研究もすゝみ大いに進歩したといえましよう。しかし保育の根本思想といふ点についてはどうであるか。モンテソリーが恩物といふものを考えた、その基底になる教育思想といふ点について、何人の先生が果たして理解しておられるのか。そういう点については、フレーベルの時より、オーエンの時より一

歩もすゝんでいないのぢやないかという印象を受ける。今後は保育プランの根柢をなす思想という面についてもわれわれはもつともつと研究しなければいかぬのぢやないかと思ひます。

それから最近修身科を復活した方がいゝとか、いやその必要がないとかやがましくいわれています。これは戦後の思想の混乱という事を考へると、こういう事がいわれなければならぬ。現実的理由がある。徳育の問題では幼稚園においても子供を保育するためにパツク・ボーンが必要でしょう。幼稚園の保育は単なるテクニクに止まつておれないで、もつとその底に追究して行かなければならぬものがあるではないか。こういう事もこれから大いに研究せねばならぬ問題でしょう。

併設する場合の考慮

寺井 千代田区には小学校が十五あります。大体この十五の小学校に附設の幼稚園が設けられると十五の公立幼

稚園が出来ることになりす。現在は十四出来ています。アメリカの教育使節団の勧告書の中にも、費用がゆるすならば是非小学校には幼稚園を併設するようにという事がいわれています。第二次使節団の勧告の中にも、小学校のパートとして幼稚園を設置しろという事がいわれている。幼稚園教育がそういう風に行うて行くということは、大変ありがたいことだと思ひます。

たゞ小学校に併設という場合に、建物が大体小学校向きにつくられているので、幼稚園向きとしてはどうかという問題がある。今後建築されるものは、小学校は当然に幼稚園を併設するのであるから、当然そういう考慮は拂われるものと思ひますが、今までは建物の併設するといふ場合一寸問題があると思ひます。

私の園はまだ経験も足らず、いろいろ問題もあり出来るだけ努力して新しい教育の線にそつて行きたいと思つてまいすが、また至らない点がおお

い。よろしく御指導願ひたいと存じます。

本日御らん願つたのは、そういういろいろの問題を投げ出して色々忌憚のない御批判を仰ぐという意味です。益々御教示願わなければいけないが、まづもつて材料を提供して、おしえを乞ひたいという意味です。御遠慮のない御高評を願ひます。

(このところで座長を決める。千代田区研究会の金川義種氏、八富士見幼稚園長、座長となる)

豊田 本日の研究会につきましましては、都の山村先生から色々御指導を賜りまして、どうやらこの程度までこぎつけたわけで御座いますが、しかし、御指示にそつて努力はしましたが、成果は一向に上つていませんことを、深くおわび申上げます。本日、實際を御らんねがつた中で、本當を申しますと、あまりおみせしたくないところも御座いました。たとえば「藥物あそび」は一週間目、「人形の家」は五

日目というように、充分こなれていないものが多く、その不完全なものをごらんねがうのは、私共としてつらかつたのですが、しかし何事もありのまゝをおみせし、御批判をねがうという意味で、敢てその不完全なものをおめにかけた次第です。

御配りした調査物も、きわめて不完全なものです。しかし私共といたしましてはどこまでも実際に根をおろした保育、子供の実際に即した保育、したがってその記録ということを考えております。この調査は発表するための調査ではなく、こういう風にいるとしらべてみて、それをもとにして何とか保育のための新しい道を発見して行きたい。そういう念願で御座います。

寺井 昨年度幼児生活プランとしてカリキュラムを作りましたが、本年は更に実態調査を基とし日々実施した上に保育案を作りお手本に差上げたのです。又、小学校との連関をどのように

考えたらいいかということです。部屋はわかれていますが運動場も同じだし、職員室も同じ、そういう点をどう考えて行つたらいいのか、これについてもいろいろ考えていますが、何とか最もよい方法をとりたいと思つています。

座長 いよいよ本論に入りまして、本日のいろいろみなさんが御らんになつた事について忌憚のない御意見を御発表になつていただきたいと存じますが、最初に山村さん。あなたが皮切りをして下さい。

興味の問題

山村 私は興味の問題から入つたらどうかと思います。今日の保育を見ても子供の興味という事について私自身よくわからないことがあるのです。幼稚園が学校教育の体系に入つて小学校との関連が非常に緊密になつたわけですが、小学校の先生と、幼稚園の先生では子供の取扱い方にちがつたところ

がある。一口にいえば幼稚園の先生は子供を興味本位に取扱う、小学校の方は興味という事をあまり考えない。何か幼稚園の先生方からみると、子供がかあいそうだという感じがする。こういう点について考えて見たらどうでしょうか。

座長 徳久先生なんかどうお考えですか。

徳久 興味の問題は大変結構だと思えます。

山村 研究議題に上げていかゞですか。

徳久 とりあつかつて結構と思えます。

大野 只今の興味の問題、それについて本日拝見させて頂いた「お店やさんごっこ」この時の取扱い方について、巢山先生にききたい。

巢山 あの「お店やさんごっこ」の狙いは、お金の正しい使い方を指導するということです。カルピス一本十五円、二本で三十円、という風にして、

十五円のカルピス二本かつて三十円拂う子もいるし、拂わぬ子もいる、その時に「三十円ぢやないかしら」という風に指導したのですが――。

大野 「人形の家」を拝見しましたが、あゝいう取扱いは失敗ぢやないかと思いますが、どうでしょう。正しい理解というものは、もつぱら「視覚」を通してなされるべきもので言葉を通してはどうしても観念的になる。大人だつてそうなんだから、子供は尙更です。今日先生はインドの話をされた。

インドとかガンジスという言葉が出た。あの時にインドとか、ガンジスという言葉は要らぬぢやないか。何故紙芝居というようなものを通してしなかつたか。あのストーリーのわかる子供は何人もいないと思う。紙芝居にして視覚を通したらどうですか。

豊田 紙芝居は見せすぎる程常にやつてをりますが、今日は話へもつて来ました。話術は下手ですが、ごらんの通り年長者年少者の混合組でございま

すのに、靜かに話にとけこんでいるあの様子をみて自分では成功してると思つてゐるのですが――併し、私も只今のお話のインドとかガンジスとかいふ言葉はいらなかつたと思ひます。

大野 話すということゝ聞くということとは別問題です。前をむいておとなしくすわつていたからといつてわかつてゐるといふことはいえぬ。おちついて、わかつてもわからなくともたと「聞く」ということに重点をおくなら別ですがね。

山村 大野先生のいわれることはよくわかりません。ハツキリおしえて戴きたいと思ひます。豊田先生の場合は一つの単元活動を終つて、皆が一緒にお話をきくという生活指導の場面ではなかつたかしら？ しかし実際の指導課程においては、カリキュラムの通りならわれない時がありますね。小林先生なんかどうお考えですか。

幼稚園保育と小学校の学習指導

小林 私はこう思ひます。幼稚園の保育を小学校の学習指導の線に引き上げてはならぬ。しかしながら、幼稚園の保育は、小学校の学習と全然ちがつた行き方をするものではない。――矛盾するが如きも私はそう考えます。

座長 これは大変むづかしいことになりました。

打越 私は、南山幼稚園、常盤幼稚園それから本日この淡路と三個所を拝見いたしました。それについていつも感ずることですが、幼稚園を見ると、幼稚園から小学校へのり移り方、それをどういう工合にスムーズに持つて行つたらいいかということですが、これは幼稚園と小学校の兩方の先生方が、よく話しあつて研究しあつて行かなければならない事と思ひます。本日こゝにおあつまりの先生方は、殆んど幼稚園の先生方ばかりのようですが、本当をいへば小学校の先生方にも多数おあつまりねがいたい。

只今、小林先生が仰言つたように、

幼稚園の保育は小学校の学習であつてはならぬ。しかし、幼稚園も教育体系——義務教育体系の一連として考えなければならぬ。これは意味の大きいことと思ひます。大体、只今の教育体系は、上から下を規定するという風になつてゐる。上のものに合わせるために下の方をどうすればいゝかというところ。しかし又一面下から上を規定するということも考えられなければならぬと思ひます。幼稚園をみますと、子供の「場」というものが実によくとゞえられてゐるといふ感じがいたします。こういうとゞのつた「場」にゐる子供が、一年経つとまことに殺風景な固くるしいところにとび込まなければならぬ。それは何か無理があるような感じがいたします。私は今日の発達した幼稚園をみて、つくづくと思ひますが、小学校の一年生の学習の「場」、あれを何とかこういう形では入つてはいけないものか、ということをおもうのです。

先程からの問題ですが、幼稚園は興味中心だということ、お遊び中心だということ、しかし全然学習ということ、を度外視出来ぬとすれば、一体どの程度まで学習を織り込ませたらいいのかその手加減はむづかしいと思ひますが、あまりに学習めいてもいゝかぬ。それかといつて「ごっこ」だけでもいゝかぬ。お金の取扱ひ方だつて中々むづかしい。先程、カルピス十五円のもの二本で三十円というふうなお話が出ましたが、これは小学校でいゝば二年生の程度です、これをどういふ風にやつて行くか。

森岡 幼稚園の子供の生活は遊びであるかどうか、仮りにそうとするならば、彼らのやることいゝえは「ごっこ遊び」につきるわけです。その場合の「模倣物語りあそび」といふものを、どの程度に、どのように指導するか。山村 その「模倣物語りあそび」といふのは何ですか。

森岡 子供は何でも模倣し、擬人化

するでしょう。動物にもなれば、乗物にもなる、そういうたことです。遊びだけにするか、別に何かを狙うか、これが一応問題になると思ひます。

「買物ごっこ」のねらい

森岡 それから興味ということ、子供の要求の承認ということですが、私は幼児であるからといつて、子供の要求を何でも承認せねばならぬということはないと思ひますね。いやだという子供もいゝし、それも引つばつて行かなくてはならぬ。先程フットボールの真似をするのがありました。中に入りたくないという子もいるか知れない。しかし共同生活としての社会性をやしなうということになれば、教育技術において、好きになれるように引つばつて行つていゝではないか。「買物ごっこ」の場合にしても、実生活とあまりにかけはなれたのは、それでいいものかどうか。今日コーヒー一杯十五円ではおめません。最低三十円位

だ。カルピス一本十五円というのは少しく実生活とかけはなれてはいないか。やはり実生活に近いものを示す必要はないか。しかし子供に一〇〇円とか五〇円とかいうのは一寸むりぢやないか。

巢山 そのカルピスの値段の問題なんです、あれは子供にきいて決めたんですし、子供の云つたねだんの中からアイスクリームはいくらいくらにしましょう。カルピスはいくらいくらにしましょうという風にきめました。その点お菓子等は実際の値段とよくマッチ致しますが、時計とか反物とかは困りです。時計は本物だつたら五〇〇円ではとてもかえませんし、玩具だつたらもつと小さい金額で買えます。この時計や反物を本当のものとして取扱うか玩具として取扱ひ種々考えたのです。幼稚園の幼児は総て模倣なのだからこれは玩具として取扱つた方がいゝと思う。とに角子供と相談して決めたのですが、私もこの値段のつけ方には相

当困りもしましたし、又疑問に思うことがおおいのです。

しかし私はこの「買物ごっこ」において、値段がどうこういうことよりも、お金の正しい使い方を指導するという考えでやりました。こういうことがあります。男の子で一寸乱暴な子ですが、「これくれよ」といつて、たゞ持つて行つてしまふ子がいました。その時にお金を出さないと、品物をわたされないとということを指導する。お金と物との交換ということを指導する。

子供達自身で一個五円のアメを二つ買つて十円というところ、お札をわたして貰います。数観念の指導ということもありましようが、私は金と品物との交換ということ又それにとまらぬ礼儀の問題に狙いをおきました。

打越 この程度のお値段の問題は、幼稚園というより、小学校の二年生位に相当する問題です。数観念ということとを主体にすると、どうしても実生活にあわなない点がよくるので、幼稚

園では「ごっこ遊び」だから値段を仮定したつていゝではないかと思ひます。「ごっこ遊び」はエチケットの問題で、数観念は別にしていゝではありませんか。

言葉づからの指導につらて

徳久 今日拝見しまして、子供達の言葉の発表が正しいということに感心いたしました。それが「劇あそび」なんかにもよくあらわれているように思いました。それについて何か特別な御指導でもなさつてらつしやいますか。

豊田 私としては特別に言葉の指導というようなことはやつておりません。しかし常に子供達に、発表する機会ということを心掛けています。与えてやることを心掛けています。お話のあととか、紙芝居のあとなんかには、必ず何か話させるようにしています。この間雪が大変降つた時が御座いましたがあ朝、黒板に「けさおきてみたら」とかいておきました。子供は字がよめ

ますから……。そしたらそれをみて、子供達がいろいろ話します。そういう機会を与えるように心掛けています。子供同士の話しあいの時にも、そばできいていて、ちがつたことをいうときに直してやる程度にしています。

櫻井 「劇あそび」は大変おもしろく拝見いたしました。最後に「しける」という言葉を子供がいまましたか……。

菱沼 「劇あそび」のセリフは別に決めたわけじやありません。今日の「しける」という言葉は決していゝ言葉ではありません。しかし子供が自然にそういう言葉を出したんです。

山村 「劇あそび」の狙いは、やはり言葉の指導という事も相当重要だと思えます。子供はわり合いに卑俗な言葉を早くおぼえるものです。たとえは「ギョツ」というような言葉ですが、子供にはあれが大変興味があるんですね、しかしそのまゝ放つておいていいかどうか。

菱沼 正しい言葉遣いということは何論大切なことです。自分の解する限りでは、正しい言葉遣いとは、社会的な共通語を話すことだと思つてます。けびた社会にはげびた言葉がありましようし、上品な仲間の間には上品な言葉がありましよう。その限りにおいて先程の「しける」というようなことも、ある社会の共通語としてみとめられる限り、その時の実感として許されますが、順次指導はすべきです。

座長 風間さん何か一つ御意見をもらし下さい。

保育にも段階があるということ

風間 一体幼児の保育というものは、心理学的な面と、医学的な面とが表裏一体にならなければならぬ。本日のお話は、心理的な面ばかりで、私は大変いろいろと教えて戴いた点がおおく、感謝にたえない次第ですが、しかし同時に医学の面、健康の面についても考えなければいかぬと思ひます。

「遊び」の場合、その「遊び」からとび出した子供の措置はどうするかというところは、心理的な問題であると共に、医学的な問題である。この園では幼児の戸外遊びというものの割合はどの位になつてゐるかわかりませんが、「お遊戯」というものは大体内でやることの方がおおいのではあるまいか。室内の遊戯もいゝが、大いに日光にあたつて戸外の遊戯をすることも考えなければいけないと思ひます。日光のよくあたる戸外がある時に、ワザワザ室内でやる事はない。

それから先程から「お遊戯」の場合に、外にとび出す子供のことが出ましたが、これをどういう風に引き入れたらいいのか。話が少しくワキ道にそれるようですが、私が最近アメリカン・スクールを見て感心した点についてお話ししたい。

アメリカン・スクールで、授業してゐるところをみたんですが、どうも姿勢がよくない。廻轉いすに腰かけてる

んですけどからだをうごかしたり、中には横になつたようにして、足を向うにのばしてゐるものもある。それをみても先生は一向に咎めないのですね。まことに一応はだらしない。ところでもたまたま、その時は書取りをやつてましたが一人の子供が鉛筆で、前にいる子供の頭をつゝいた。すると前の子供がうしろを向いて、つゝいた子供と何か話をした。授業中は私語をしてはいけないし、事になつてゐるんですが、それを私語した。すると先生がその子供の方を見つとみつめた。はじめは子供も先生にみられてゐるということに気がつかなくなつたらしいが、その中先生の視線にパツパツとあつた。するとその子供は、パツと顔をあからめて、スゴスゴと席を立つて、うしろの方の控室へ行つて、自分のオーバーからハンケチをとり出して、鼻をかんで——これは鼻が出るからではないので、非常に自分自身といふものをはづかしいものだと思つたさいだといふことがよくわか

つた。この時は完全にその子供は、自分のしたことについて、自分自身を懲罰したんだと思う。それから校長にやつて、どうもこの学校は姿勢がわるいと卒直にいつた。すると、校長は、あなたは正しい姿勢というものを見てくれましたかという。次の教室には正しい姿勢の子供がゐるといふ。で、次の教室をみたら、こゝも姿勢のわるい子供がゐるが、しかし腰を深くいすにかけて背をのびした姿勢のいゝ子もゐる。校長はそれは段階だといふんです。つまり姿勢をよくさせることについても、それゝ段階があるといふんです。この段階といふことは大変おもしろい事だと、深く感じて来たんですが、沢山ゐる子供の中には、健康上から動きえない子供、うごかしてはいけない子供、うごかしすぎてはいけない子供がゐる、そういう段階について、十分に注意してほしいと思つた。

あらわれよりも指導課程を

徳久 本日は「劇あそび」を四種類みせて戴きましたが、これを指導された菱沼先生に四つを選んだことについて御意見をうけたまわりたい。

菱沼 「日向ぼっこ」は遊びを巡環させて行く、いくつものグループがある。そして飽きるまで続けられるという事を狙いました。あの中の「押しくら饅頭」だけでも、どこまでもつゞけられる。

「楽隊遊び」は、おもちゃのマーチを中心にして、歌をおしえるために遊戯をするようにし、歌を中心にしてすゝめて行つた。あとの二つは脚本があつて忠実に劇化したもので、あらわれよりも指導課程に重点をおきました。劇作家の立場からいへば、劇の狙いはセリフ、そのものであるべきですが、私はセリフが正確だかどうかということよりも、子供の中から自然に出てくる言葉といふものを捉え、言葉と表象と

を一致させるように努めました。言葉は環境にふさわしい発言があればよいと思うので、劇の演出そのものは作者から見れば不満足かも知れないが、それでもよいと思つてゐる。あらわれはどうであるかと、結局指導ということに主眼をおいて、演劇ということを必ずしもよく知らなくともいふから、それによつて教育するんだということ、妥当だと考へるものについて、その意図をおしすゝめたらいいではないかと思ひます。

森岡 「ボール遊び」についてですが、あの評価に「遊戯規則がよく守られているか」とありますが、一体ボールをキツクするというのは小学校の四年生位になつてはじめて可能なことではないですか。幼稚園の幼児には無理だと思ふ。あの年頃の子供にはむずかしいルールなんて要らない。あまり物真似にすぎるのはよろしくないと思ふ。

豊田 物真似をさせたというけでわ

はありません、小学校の生徒がやつてゐるので、それを幼稚園の子供が興味をもつて真似をしたのです。毎日このあそびに先生が引き出される形です。子供自身はよろこんでやつてゐるんです。評価のところに「規則」と書いたのは適当な表現ではなかつたようで、「規則」といつても本式のルールなんでものではなく、たゞ子供同志の「話しあい」程度のものです。

森岡 ボールを投げるとか受けとるとかというのは、幼稚園の子供にはむりです。程度が高すぎる。段階的に子供の身心の発達程度に応じたものを与えるようにしなければならぬ。

数の取扱ひ方をどうするか

座長 今迄いろいろなお話がありました。その中には時にお互に矛盾するようなお話もありましたが、個人個人としてはとにかくうなずくところがあるではないかと思ひます。しかし一応こゝら辺で小林先生に、裁定して

いたゞいたら如何でしょう。

小林 結論を申上げる前に一言二言いわしてゐたい。今日は「劇あそび」を見せて戴いて大変うれしく存じました。言語活動をあゝいう風に「劇あそび」にとり入れて、セリフを別にあたえないというところに本當の子供の声が出る。非常に活潑に自信を以て表現されていて誠にうらやましい感じがいたしました。先程、変な言葉遣いの問題が出ましたが、これは環境というものを考慮すれば当然あゝいう言葉遣いが出るという事は考へられる。それを無理に封じ込めようとするのは却つていけないじやないかと思ひます。問題は幼稚園以外の環境にあるので、その時に指導しなくとも、又の機会にいくらも指導する時があると思ふ。あまり制限することはよくないと思ふ。それから算数の事が問題になりましたが、文部省の方の保育課程には算数に該当するものがありません。しかし幼児の生活の中には、明らかに算

数の生活がある。十円貰つた時何を買
うか。アメを買うか、何を買うか知ら
んが、とにかく何かを買うという事は
あると思う。百円札を貰つても、なれ
た子供は何かを買う事を思うでしよ
う、我々現場のものは、「こつこ遊び」

といつても、たゞ「遊び」に終始して
いゝか、わるいかを考えなけりやなら
ない時がたしかにある。この機会に、
数に対する取扱方をどうすればよいか
を、ハッキリ決めて戴いたら大変結構
だと思ひます、たゞ、私としては、「こ
つこあそび」は、幼稚園に関する限り
「遊び」でおわつていゝのではないか
と思ひますが、及川先生、どうでしょ
う。

及川 私は何事も子供の経験内容の
問題だと思ひんです。この地区は商業
地区ですから子供の経験内容も、他の
地区から比べて多いと思ひます。こと
にお金に関する子供の経験内容によつ
てハッキリしているものは、ハッキリ
させた方がいゝと思ひますが、反物と

か時計とかの場合には、直接子供の経験
内容ではない。だから五〇〇円の時
計、五〇円の反物といつても、それで
いゝと思ひんです。

座長 高杉さん、御意見を伺いた
らう。

幼児に対する科学指導

高杉 私は科学指導という事で申上
げたい。一体幼児に対する科学指導と
いう時に、幼稚園の幼児に、どうい
う場合に科学指導するかという問題だが
私は幼稚園では、たとえば花なら花を
観察するという時に、「花をめぐる」
という段階でいゝと思ひます。それ以
上すゝんで、おしべがどうの、萼がど
うのといふことはいらんことだ。

保健という面でも、運動の場合ルー
ルをおしえるとかいうのはあまり考え
んでもよい。子供はだまつていても動
くものだ。動きすぎる位うごく。むし
る私は「動かす」というより「休養」
といふことを考えたい。おとなしくし

ているといつても、おとなしくしてい
ない。「休養」という事は真剣に考え
ねばならん。

それから数のことですが、幼稚園の
子供は一〇〇も二〇〇も凡て一に考え
る。小学校に上るようになって、その
正月頃からはじめて数といふことを考
える。しかしそれも自分の年の数より
下の数です。それ以上の事はむずかし
いじやないかと思ひます。学龄前の子
供にとつても一〇〇も二〇〇も三〇〇も
五〇〇も、みんな一です。三〇円、五〇
円、一〇〇円、二〇〇円というよう
なことをおしえるよりも、むしろ、しつ
かりした一をおしえる。それでいゝの
だと思ひます。先を急いじやいけません。

私は幼稚園で果たして単元教育が可
能なりや否やを疑つてゐる。勿論単元
の捉え方ですが、これを生活の一断面
と考えると、単元教育はむずかしいじ
やないですか。幼稚園の子供は刹那、
刹那だ。その刹那、刹那の子供を捉え
て、そういうことはむずかしいと思

う。

座長 この点で黒澤さん、何か御意見ありませんか。

学習における「ごっこ」遊びの意義

黒澤 私は素人で幼稚園のことはよくわかりませんが、先程から「ごっこ遊び」とか「興味」の問題が出ました。結論は、ハッキリしているわけで、又必ずしもハッキリしているわけではない。しかし結論は小林先生の仰言つたことに尽きるではないかと思う。小林先生は小学校の学習と幼稚園のあそびとはちがう。別のことを以てすれば幼稚園には幼稚園の生活があり、小学校には小学校の生活がある、「だが幼稚園のあそびは小学校の学習と別のものであつてはならない。」これは矛盾する如きもやはりこういうものだと思ふ。

そこで色々問題があげられましたが「ごっこ遊び」については私はこう思

う。「ごっこあそび」を小学校でとり上げる場合、そのあそびが学習になつているかどうかの反省がなされねばならぬ。幼稚園ではそれでいいが、小学校ではそのまゝ許されるかどうかの問題、二年生、三年生になつてもそういう考慮の必要な場合もある。大体子供というものは、表現方法のまづいものである。その場合、「遊び」は最も子供に適した表現方法である。その遊びの中に、子供の経験の中に、生活学習の中に表現された要素の中で、認識の不完全なもの、偏よつたもの、誤まれるもの、これをとり上げて経験の再構成という意味において、子供の生長をたすける。これが学習における「ごっこ遊び」の意義ではないかと思う。

幼稚園の遊びをそういう角度から見ると、小学校の学習とちつとも違わないう事になる。だから私は「遊び」は遊びのまゝに終始して一向にさしつかえないものだと思ひます。不完全なものをおまりに高いところを持つてく

ると、学校の学習とちがわなくなったり、むしろ低いところで抑えた方がよいと思ふ。たゞあまりに低いところで押えておくと、それは幼稚園の教育にならぬから、たとえ「言葉遣い」とか「金と物との交換原則」だとかいう位のことはおしえねばならぬと思ひます。コーヒー一杯十五円が妥当かどうか、これはどつちでもいゝではないか。たゞ、没頭しさえすればよいのだ。実生活の値段でやると高度な学習になる。むりが起きる。「遊び」を中心にして、しかも「学習」の本質を忘れてならぬという事になります。幼稚園と小学校のちがいはハッキリしてるわけです。しかし幼稚園の最後と、小学校の最初と同じだ。これをどういう工合にスムーズにむすびつけるかが問題だ。

それから今日の保育案を拝見して一寸意見がありますが、一番、二番はよいとして、三番、四番は、もうこれは中学、高校の部類だ。五番に至つては

表を見た時ゾツとした(笑)これについて小林先生に一つ高評を得たい。

体罰について

黒澤 その前に一寸質問がありま
す。それは統計表の中に注目すべき事
がある。三頁のところに「体罰」のこ
とが書いてある。体罰という事を学校
としてどうお考えになるのか。それか
ら子供のもつ疑問のことですが、これ
を見るとすいぶん高度な疑問をもつ
ている。人間の発生に関するもの、生物
の起源、天文現象——中々大変なもの
だ。これを實際保育案でどう扱うか。

豊田 只今の体罰のことですが、こ
れは家庭で子供をしつける時にどうい
う方法をとるかについて調べたのです
が、大体この辺は商店街ですから、子
供は幼稚園まかせというのが多い。朝
洗面しないでくる子もいます。乱暴な
子もいる。「どうもいう事をきかなか
う」という親がおおいのです。

黒澤 二枚目で一家庭の幼児に対す

る指導」というところで、「中庸」と
いうのが八割程度だが、その中に体罰
を加える家庭が六割もある事になつて
いる。学校では体罰を加えることも又
「中庸」だとみとめるのか。アメリカ
あたりでも子供のお尻を叩くとかいう
事はあるらしいか、日本では頭をなぐ
るでしょう。そういう事を承認されて
いるのですか。

豊田 それはマア極端な家庭ですが
「先生いくらいつたつてわからないで
すよ」という。われわれは「よく言い
きかしたら……」というのですが「ど
うしてもわからないので……つい」と
いう。

黒澤 体罰容認というのは、アメリ
カの悪き模倣じやないかな。

小林 体罰といつて押入れに入れる
位のものでしょうか。

黒澤 頭をなぐるのもいる。これは
自分の経験では失敗だな。

寺井 日本の家庭ではやらぬ方がい
いと思う。

幼児の疑問をどう処理する

豊田 それから「疑問」のことです
が、これは子供によつて非常に智能差
がありまして、子供によつては高度の
疑問を出す子がいます。これを折りに
ふれて記録しておいたものです。学理
的な説明をしてもわかりませんから、
結局、疑問にこたえて疑問を更に深く
するというように持つていけばよいの
ではないかと思いますが、非常にむず
かしいことです。黒田先生あたりに伺
いたいと思つてました。こんな事が御
座いました。あるところに子供をつれ
て行つた時、木の葉が黄色くなつて
るのがある。子供達はお互にそれにつ
いて話してゐるんですが、どうも日のあ
るところが黄色くなるのだという事にな
つたらしい。ところが日の当るところに
いるのに黄色くならない葉があ
る。それは椎の木なんです、それは
おかしいという事になつた。するとそ
こにいた女の子が、「あれは一年中黄

色くならない葉だつてお母さんがいつたわよ」といいました。それから少し歩いていたら寒々とした陽蔭に葉が茶褐色に色ずいていたのです。それをみつけた子供が先生「こゝは陽があたらないがどうして黄色なんだろう」とつて質問されました。幼児の疑問には私達指導者は充分な理論の研究がなければならぬと痛切に思いました。

黒田 幼稚園の科学教育をどうするか、その年頃のいろいろな疑問をどう取扱うかという事は実は相当困難な問題なんです、大体こうした疑問を持つという事は科学教育理科教育の出発点で、それ自体は慶賀すべき事なんです。幼児のもついろいろな疑問、それを「そんな事はどうでもいゝんですよ」という風におし潰してしまふのはまずい。出来るだけ具体的に、時には多少科学的に歪められたつていゝから、わかるように説明してやるんですね。実際現在の科学者だつて本当にわからない事がずい分と多いのですから

菱沼 一寸申上げますが、先程の「家庭の指導」のところでは厳格、中庸という事なんです、これは「劇あそび」なんかやらしてみるとすぐわかるんです。厳格に育てられている家庭の子供は、一言でいえば「固い」と感じ、とけこめないんです。大人の枠をはめられ、結局世界がせまいんですね。私はいつても親達にいつてやるんですが、「子供のわがま」という事もあるだろう。しかし親達の方がもつとわがまなのではないか」と

中村(魁) 先程子供の疑問をどう扱うかという事でしたが愚見を申上げますとこれは前にある本でよんだんですが、日本人は人から問はれた時にすぐ返事が出来ぬと「あいつは物知らず」とだということになる、英国人は「明日返事します」という。アメリカ人は「図書館に行つてしらべて返事をする」という……。それで子供から何かをたずねられて、即答出来ない時には、明日

まで調べて来てとか、又いついつまでハツキリさせてからとか約束した方がよい。その約束をスツボラかしたら子供達から「先生は知らないんだ」といわれるだろうが、その場でいゝ加減な嘘をいつてゴマ化すよりはいゝと思ふ。

幼稚園とカリキュラム

座長 時間も大分予定よりのびていよいよ大詰に來た感じですが、こゝいり辺で一つ及川先生に御講評をねがいたい。

及川 今日拝見しまして、子供達が大変元気なのは何よりも、うれしいと思ひます。私は戦災をうけてから丸二年限この近くに住んでをりましたので、こゝいり辺のことはよく存じてをります。環境がよくわかるんです。一つの家に何世帯もおつて、十分な遊び場がない。本日は今は雨が降つてますが午前中は幸い大変いゝ天気、子供達がひろい運動場で元氣よく遊んでい

る。垣根の外から近所の子供まで顔を出して、うらやましそうにみていました。私は大変うれしいと思いました。室の中には十分な玩具がある。子供達や先生方のおつくりになつたものが沢山あります。戶外室内共に子供達に満足をあたるように行つてゐる。本当に嬉しいと思ひました。小学校の子供の姿もみえず、全部幼稚園のために提供されているという感じでした。大公立の幼稚園は、独立した遊び場をもつてません。週に一度でもいゝから、こういう風に幼稚園のために開放してやるという配慮がのぞましいと思ひます。小学校と幼稚園の先生方の御協力ぶりもうらやましい限りです。

本日の大体的話は、先程から黒沢先生と山村先生の問答の中に、實際保育しているものであればおのずから感得するものがあつたと思ひます。大変心すよい感じがいたしました。

「刷り物（カリキユラム）だけをみますと、大変むすかしいところもありま

す。「ごつて遊び」も年齢的に必ずしも容易でないというものもある。しかし幼稚園からいえば、カリキユラムの全部を、あらはすという事は必ずしも考えていません。カリキユラムの内容が、全部あらわされるといふ事は、幼稚園という性質上、期待すべきじやないと思ひます。十人の子供なら十人の子供全部に及ぶといふ事を期待してはいけない。もれる子供もいる。それは仕方がない。そういう点に小学校の先生方からの御批判もあると思ひますが、幼稚園は、カリキユラムを十分研究して、計画全部を要求するわけじやないのです。どれだけうけとつてくれるか、一部分しか子供にうけとつて貰えぬという事もあります。いはゞ「労働多くして効少い」仕事なんです。幼稚園の先生は一体何をしてるんだというような御批判もあります。おそくまでのこつて、いろいろしらべて、しかもそれで十分ではないのです。こちらはよく調査も出ています。ゆきとよい

た案の下に保育されていて。大変うれしい限りです。

座長 次に山村先生、しめくよりのお言葉を。

小学校と幼稚園の連繫をもつと密接に

山村 教育庁主催の實驗幼稚園最後の発表会として今日淡路稚幼園の一年間の御研究の後を拝見して皆さまもそれ／＼の立場で感ずる所があまりの事と思ひます。最初南山幼稚園の発表会の折にいろいろと討議された後で私が一寸耳にしました事は、あのよう一年生の連絡まで見せて下さつた計画の爲、に圧縮された時間に定められた保育計画全部を見せて頂いていくらか固くるしい、子供の自由な動きが見えない……ということでしたので第二回目の常盤幼稚園の発表会の時にはこの点を考慮して子供達の実態と結びついた用意周到な保育プランを用意しておいて、子供達の生活の流れはどこまでも

自由にそのプランの中にとびこめるようにと先生方ともいろいろと相談して当日を迎えましたところ、当日は余りに多くの参観人で、あのように保育室の入口にも至る所に人垣を造つてしまつて、子供達も園全体を使つていろいろの遊びに飛こめなかつたのと、先生達も日常の気分よりいくらか上つていたためか、積極的に指導せねばならぬイチャンスを見逃してしまつたところもあり、小学校の指導主事の先生方からは「幼稚園には指導はいらないのか」「いつ指導するのか」「いつまで遊ばせておくのか」等々の御質問をうけて、私が一人で答辯した形になりましたので、今回淡路幼稚園の時には最後のしめくよりの意味もありますので、私も責任を感じて度々御相談にのりまして、今までと違つた保育形態を見ていただき、又多くの御批評をいただく爲にも講師の講演などぬきにしまして先程からゆつくりと充分に皆様の御討議をいたゞいたわけで御座いま

す。幼稚園の実際家の方々には先程からのお話でそれ／＼皆さまの御考えがまとまつた事と存じますが、たゞ私、少々残念に思いますことは、先程の様に小学校側の立場から色々とお話が出ました際に、もつと幼稚園の現場の先生方から沢山の発言があつて学習につながる、幼稚園の遊びの生活が具体的に示されたり、生活の中で自然に行われている「指導」の面が具体的に示されたら、もつとよく幼稚園の実態をつかんでいただゞくことが出来たのではないかと思ひます。先程から度々お話に出て来るように、やがては学習に入らねばならない就学前の生活、ことに入学一ヶ月前の三月の幼稚園の生活が、本日の淡路幼稚園の生活を通じてもうなすけるように幼児の生活経験が相当ふくらみをもつて入学して行く時、一年に入学してから少しでも足ぶみして行くようでは子供達の爲にも、幼稚園の進展の爲にも大いに考えさせられることと思ひます。私共ももつと小学校低

学年の学習内容をも知つていて学校の先生方と充分連絡をとる必要があると思ひます。今まで幼稚園はだれもかまつてくれぬと私なんかすいぶん残念がつたものでしたが、今日はこうして多くの指導部の先生方から問題をなげかけられて小学校の観点から幼稚園の実態にふれていろいろと御批評いただいた事はほんとによい勉強になつたと思ひまして嬉しいかぎりです。

保育者の責任を感じる

山村 先日も常盤幼稚園の研究會の折、及川先生が卒業生の肩をたたかれ「うづかりしてはいられませんよ」となにげなく云つておられた後に立つていてほんとに私まで痛感してゐるところです。「今日あなたは子供達の爲にどんなことをしてあげましたか」「今はどんな指導のどんかひにありますか」と問はれた時にはつきりと自信をもつて「A子の〇〇はここまで進んできました」「これがこの子にとつて一番大事

なガイドンスである」と……：自分のしている仕事は他人にもわかつてもらえらるるに努力することも又私共保育者の責任の一つだと思ひます。今までの三回の発表会でそれ〴〵違つたカリキュラムのもとに、それ〴〵一年間の成果を見せていたゞいて、ほんとに心づよく感ずると同時に、又新たな研究意欲をもたれたことと存じます。研究を指定された幼稚園の先生方の御苦心はほんとに涙ぐましいものでした。それ〴〵の会場で渡されました印刷物が皆さまの苦心の後をより一層つよく物語つてゐることをさとられたと思ひます。どうぞ御参会の皆さまにはこのような研究会の感激を胸におさめて四月からの新入園児と、新学年年度を迎える心の準備にしていたゞき度いと存じます。

中村(昇) 最後に閉会の辞に代えて一つ。

先程、農村の子供は幼稚園の設備がなくて可哀想だというようなお話たつ

た。しかし私はちがう。農村のあゝいう健康な大自然、あゝいうところになら、子供は放つぽつておいてもよい。可哀想なのは都市の子供です。ロクな遊び場もない。当区の如き十五の小学校の中十四に幼稚園が出来ています。しかも希望する子供を十分に收容出来ないのです。公立幼稚園は寥々たるもの、收容出来ずにとりのこされてゐる子供達の事を思うと胸がいたい。

何よりも幼稚園の数をふやすことではどうか。これに必ずしも夢のような話ではないと思ひ。基準をきめて、基準以下のものは切りすてる事にすれば、切りすてられる施設は、必ずやその基準まで高めてくれる。それから現在、区で負担している人件費を都で出す。都はもつと幼稚園の増設拡充について懸命になつて貰いたい。

座長 いろいろありがとう御座いましたこの辺で。

記録者より——本稿は選記術による逐語記録ではありません。しかし所謂要領筆記というのでもありません。新聞社等でインターヴューの時に用いる談話筆記の型式によるものです。私としては出来るだけ正確に、各先生方の発言を記録したつもりですが、筆記型式に一定の制約があり、時に誤まつて記録した点もあること、思つています。そういう点は偏に御諒恕ねがいたいと存じます。

編集委員 西山浪太郎

× × ×

× × × ×

第四回関東保育協議大会記

第四回関東保育協議大会は六月一日二日三日の三日間千葉県成田幼稚園を会場として、文部省玉越事務官、厚生省土村事務官、千葉県教育委員長、千葉県民生部長をはじめ多数の来賓臨席のもとに、関東一部六県の会員五百名以上の参加を得て盛大に開催された。研究発表に、協議に、そしてレクリエーションに、熱心に、真摯に、而も和氣に満ちた会合は將來の日本の幼児の幸福が約束され、幼稚園、保育所、公立、私立の別を越えて、「如何にして幼児を」の一点に結び合つた時、將來の保育のあり方が暗示されたのであつた。フレibel先生の百年忌に斯の様な会合を持ち得たと云ふこと、特にその生涯の幕を閉じた六月と云う月に、日本のフレibel倉橋先生の記念講演を持ち得た事は此の大会を一層意義あるものにしたのであつた。

次に日程の順序に従つて簡単に大会の内容を記することとする。

第一日(六月一日)

午後一時開会。松本副委員長の辞に続いて、皇太后様の御逝去に対して一分間の黙

禱を捧げた。次に保育歌斉唱、委員長挨拶、経過報告と型通りに進み、文部大臣、厚生大臣、千葉県知事、千葉県教育委員会代表、成田町長の祝詞があつて、第一部を終了、第二部の表彰式に移る。表彰は関東保育連合会の申合せによつて大会開催県に於ける幼稚園、保育所に於て滿二十年以上保育に従事して居る現職者を、関東保育協議大会の名に於いて表彰するのである。被表彰者の職氏名は次の通りである。

- 成田町私立成田幼稚園顧問(五十二年)
- 山口 政子
- 成田町私立成田幼稚園教諭(三十四年)
- 滝沢 よし
- 成田町私立成田幼稚園教諭(三十三年)
- 若命 キミ
- 千葉大学教育学部附属幼稚園教諭(三十二年)
- 田辺 周
- 市川市私立自然幼稚園教諭(三十二年)
- 石田 トナ
- 佐倉町立佐倉幼稚園教諭(三十二年)
- 佐々田知恵
- 成田町私立成田幼稚園教諭(三十年)
- 船橋市中央保育園保母(二十九年)
- 高田よしと
- 金子 かの
- 旭町私立旭稚幼稚園長(二十八年)
- 角田 澄宣
- 旭町私立旭稚幼稚園教諭(二十六年)
- 安西まさ代
- 市川市私立日の出学園幼稚科教諭(二十年)
- 土屋 まさ
- 茂原町私立高師保育園長(二十四年)
- 篠田加津子
- 浦安町立浦安小学校附属幼稚園教諭(十四年)
- 松浦 ひで
- 館山市立館山幼稚園教諭(二十三年)
- 熊井 嘉鶴
- 館山市立北条幼稚園教諭(二十二年九月)
- 山岸 ちか
- 野田市立野田幼稚園教諭(二十一年)
- 箱石 孝
- 松戸市私立有隣学園理事長(二十一年)
- エーネパウラス
- 銚子市私立銚子保育園長(二十一年)
- 上野 純良
- 小湊町私立タチバナ保育園保母(二十年)
- 石村 きよ
- 船橋市私立自然保育園長(二十年)

篠田 道子

右の方々に対し、大友委員長から賞状並にフレール館及び国民図書から寄贈の記念品の授与があり、被表彰者角田代表の挨拶があり、式を終る。

第三部に移り、フレール先生に一分間の黙禱を捧げ、研究発表を行う。発表者とその題目は

一、リズム遊びについて

東京都千代田区立番町幼稚園教諭

徳久 孝

一、新しい生活保育を志して

千葉県館山市立北条小学校附属幼稚園教諭

山岸 ちか

一、言葉に表れた幼児の情緒の一端

群馬大学学芸学部附属幼稚園教諭

鈴木 正子

一、宗教幼稚園の特質と運営方

埼玉県浦和双恵幼稚園教諭 松尾 清枝

夫々内容の充実した研究の成果を発表し、熱心で活潑な質疑応答があつて終る。

引続いて全国保育大会提出議題の審議に入り、各都県代表二名づつ、からなる委員付託とする。

第二日(六月二日)

午前九時開始、神奈川・栃木・茨城各県から提出の協議題について協議する。議題と提案理由説明者は、

一、幼稚園教諭の養成促進について

宇都宮女子高等学校附設幼稚園教諭

小川 政子

一、幼稚園職員の待遇改善に関する件

水戸市立三の丸幼稚園教諭 須田 千代

一、幼稚園教諭と保育所保母免状の共通について

神奈川県渋谷町神愛保育園園長

大地 兼香

右の問題について近來にない熱意を以て討議が行われ特に第三議題については、懸案の幼稚園と保育所とのあり方についてまで拡大討論され、文部省厚生省の係官の責任ある解答まで求められ、全国大会にまで持ち込むことになった。

続いて、会計報告、次回会場群馬県代表の挨拶、全国大会提出議題について委員代表からの発表があり、一応大会の幕を閉じた。

午後は久しぶりに倉橋惣三先生を迎えて「保育の充実」という題のもとに充実した講演を聴く。会員は足のしびれ(座つて聴

いて居つた)も忘れて全く魅せられたように聞き入つた。(講演は本誌に載録)

見学とレクリエーション。

大会が緊張したものであつただけに、レクリエーションへの期待も強く、心も浮々する。斯のような時の汽車の旅は又格別である。銚子に着くまでの約二時間、話に花が咲く。銚子についてヤマサ醤油の会社を見学し、犬吠岬の眺鷄館に着く。人よし、景色よし、酒またよし。カクシ芸の各県コンクール、地元の人々の箏、鼓、太鼓入りの大漁節、疲れも忘れ、夜の更けるのも忘れて歡を盡した。

翌日、御来光を拜し、犬吠岬の燈台からはるかにカリホルニヤの海岸をのぞみ、銚子港の鯉の山にそゞろ掃蕩の念のきざす頃解散した。三日間にわたる全期中、幸に天候にめぐまれ無事に大会を終了した事を委員の皆様と喜ぶと共に、物心両面に亘つて此の会に多大の御援助を賜つた関係各位に心から感謝の意を表して此の稿を終る。

(千葉・宮内記)

フレイベル 歿後

百年を記念する二つの催おし

この六月を中心とするフレイベル百年記念の行事は各地に行われ、いずれもこの幼児教育に不滅の燈火を掲げた偉人の遺徳を顕揚す

るにふさわしい盛大さを以て終始したが、特に東京においては、左の二つの催おしが極めて盛大、有意義に開催せられた。

(i) 日本幼稚園協会・日本保育学会
東京都保育会・東京都私立幼稚園協会 主催

フレイベル百年記念講演會

これは六月二十三日(土)午後一時半よりお茶の水女子大学講堂において開催せられたが、定刻前後には遠くまた近くの職場から、或いは学校、研究室から、大きな期待に胸ふくらませながらあつまる人々五百を以てかぞえ、壇を輝やかして開会のベルをまつ。演壇背面には倉橋本誌主幹がブランケンブルヒより特に持ちかえつたフレイベルの肖像を掲げ右手前面には寺内万治郎画伯画くところの子供と遊ぶフレイベルの絵が掲げられてある。定刻を少し遅れて開会が宣せられ倉橋講師登壇、開会の挨拶に云えてフレイベル遺跡巡礼

の思い出を語る。例によつて淡々たる中に滋味溢る、の名調子、聴衆は遙に遠くツウランギアの森に遊ぶ思い、多大の感銘を残して降壇、つゞいて海後、石山兩教授、夫々「新らしきフレイベルの発見」「フレイベルと現代教育の理念」の演題の下に、長講二時間にわたる熱辯に、遊堂は今やフレイベル一色に塗抹せられ、この偉人の風貌を眼前に髣髴たらしめる思いの中に、講師夫々に降壇、最後に山下教授万雷の拍子の中に閉会の辞を述べ、深い感激の中にこの催おしはおわつた。

(ii) 東京都私立幼稚園協会 主催
東京都国立幼稚園団体
フレイベル百年記念大會

これは六月十六日(土)午前九時より読売ホールにおいて開催、夜来の雨も、この意義ある催おしを思つてか、朝にはやみ、降らず照らずの絶好の行事日和定刻九時にはさしものひろい読売ホールも、座席を殆んど埋めつくす来会者に、早くもこの日の催おしの盛大さを思わせる。定刻片谷東京私幼協合理事長開会の挨拶をのべ、この記念すべき日を境に、更に新たなる保育への精進を誓う。つゞいて青柳全国私幼協合理事長の祝辞、また、長田広島大教授は「フレイベル教育学の根本問題」なる演題の下に、生涯を賭けられたフレイベル研究の蘊奥披靡に、聴くものは思わず襟を正す。かわつてフレイベルの孫弟子ともいふべきキュッリヒ女史立つて、短艇ながら全身これ信念、渾身聴衆にその気魄を叩きつけるような熱辯を以て「幼稚園に立つものの使命」を説き去り説き来たり、聴衆を思わず吐息をはかしめる。これを以て第一部をはり午後一時よりはキングレコード、国立音楽大学有志をはじめとする多彩なりクリエーションの演出、わくが如き感激の中に、午後四時三十分この意義ある催おしはとちられた。

官庁公示連絡事項

附属幼稚園の名稱變更

国立学校設置法の一部改正にともなつて（昭和二十六年三月三十一日法律第八十四号）従来の師範学校が廃止されたので、師範学校附属であつた幼稚園は、各大学の教育学部又は学芸学部の附属となつた。たゞし東京女子高等師範学校と奈良女子高等師範学校とは昭和二十七年三月三十一日まで存続するので、この兩附属幼稚園は現在のままである。

なおその名稱は文部省令で定めることになつており、その定め以外の具体的ものは各大学で定めてよいことになつてゐる。

- | | | |
|----|------|-----------------|
| 1 | 青森県 | 弘前大学教育学部附属幼稚園 |
| 2 | 岩手県 | 岩手大学教育学部附属幼稚園 |
| 3 | 宮城県 | 東北大学教育学部附属幼稚園 |
| 4 | 秋田県 | 秋田大学学芸学部附属幼稚園 |
| 5 | 山形県 | 山形大学教育学部附属幼稚園 |
| 6 | 栃木県 | 宇都宮大学学芸学部附属幼稚園 |
| 7 | 群馬県 | 群馬大学学芸学部附属幼稚園 |
| 8 | 埼玉県 | 埼玉大学教育学部附属幼稚園 |
| 9 | 千葉県 | 千葉大学教育学部附属幼稚園 |
| 10 | 東京都 | 東京学芸大学学芸学部附属幼稚園 |
| 11 | 新潟県 | 新潟大学教育学部附属幼稚園 |
| 12 | 富山県 | 富山大学教育学部附属幼稚園 |
| 13 | 石川県 | 金沢大学教育学部附属幼稚園 |
| 14 | 山梨県 | 山梨大学学芸学部附属幼稚園 |
| 15 | 静岡県 | 静岡大学教育学部附属幼稚園 |
| 16 | 愛知県 | 愛知学芸大学学芸学部附属幼稚園 |
| 17 | 三重県 | 三重大学学芸学部附属幼稚園 |
| 18 | 京都府 | 京都学芸大学学芸学部附属幼稚園 |
| 19 | 大阪府 | 大阪学芸大学学芸学部附属幼稚園 |
| 20 | 兵庫県 | 神戸大学教育学部附属幼稚園 |
| 21 | 奈良県 | 奈良学芸大学学芸学部附属幼稚園 |
| 22 | 岡山県 | 岡山大学教育学部附属幼稚園 |
| 23 | 広島県 | 広島大学教育学部附属幼稚園 |
| 24 | 徳島県 | 徳島大学学芸学部附属幼稚園 |
| 25 | 香川県 | 香川大学学芸学部附属幼稚園 |
| 26 | 愛媛県 | 愛媛大学教育学部附属幼稚園 |
| 27 | 長崎県 | 長崎大学学芸学部附属幼稚園 |
| 28 | 熊本県 | 熊本大学教育学部附属幼稚園 |
| 29 | 大分県 | 大分大学学芸学部附属幼稚園 |
| 30 | 鹿児島県 | 鹿児島大学教育学部附属幼稚園 |

會から

○今年フレイベル百年記念行事は六月を中心として極めて盛大であつた。各地のくわしいことをこゝに

報道する資料をもち得ないことは遺憾であるが広島福岡徳島その他いづれも有意義に盛大であつたことをきいている。

○東京都私立幼稚園協会、東京都国立幼稚園団体共催、読売新聞社後援の「フレイベル百年記念大会」は、六月十六日午前九時から読売ホールに於て、東京都私立幼稚園協会理事長片谷武雄氏あいさつ、愛泉寮長ゲルハルト・エ・キユツクリヒ女史、及び広島大学教授文学博士長田新氏の講演を第一部とし、第二部には、東京私立幼稚園協会副理事長笠原秀定氏のあいさつ、キユツクリヒ女史の「所感」について合唱、ヴァイオリン演奏、手品、独唱、幼児童謡、舞踊等の最も多彩なる内容のかずかずをもつて終日を有益にたのしい大会として行われた。

○神戸頌栄短期大学主催、兵庫県兵庫保育会後援フレイベル館協賛によるフレイベル記念公開文化講座及びフレイベル百年記念講演会の開催は、フレイベル精神をもつて六十年の歴史をつらぬいてきた頌栄短期大

学の記念行事として充実したものである。講座に於ける長田新氏、莊司雅子氏、講演会に於ける水野浩志氏、莊司雅子氏、ポール・ウイラード氏、及び、長田新氏の勞を多とする。

○これにあわせてお茶の水女子大学で開催せられた日本幼稚園協会、日本保育学会、東京都保育会、東京都私立幼稚園協会共催フレイベル館協賛のフレイベル百年記念講演会も亦我が国に於けるフレイベル崇敬の心を高唱するものであつた。

○特にNHKによつて六月廿一日フレイベルと幼稚園教育に関する座談会、廿四日には「光りをか、げた人々」の時間に於て、フレイベルの劇化放送が行われたことは、フレイベル百年行事を最も広く普くしたものとて感謝を放し得ない。

『幼児の教育』編集

編集主任 倉橋惣三
協力委員 牛島義友、齋藤文雄、及川ふみ、多田鐵雄、波多野完治、山下俊郎、山浪太郎、西山浪太郎

編集委員

日本幼稚園協会

幼児の教育 第5巻 第八号

改訂価格 金五拾円

昭和二十六年八月十五日印刷
昭和二十六年八月二十日発行

東京都中野区千光前町一〇

編集兼 倉橋惣三
発行者

東京都板橋区志村町五番地

印刷所 凸版印刷株式会社

東京都文京区大塚町三十五

お茶の水女子大学附属幼稚園内

発行所 日本幼稚園協会

東京都千代田区神田神保町二ノ四

發賣所 株式会社 フレイベル館

電話九段(33) 三六七・三九七・三〇三・八〇二番

振替 東京一九六四〇番

○本誌御購読について注文申込その他は凡べて発売所フレイベル館宛に願います

保育資料 うたとあそび

小林つや江共著
四六倍判 一八四頁
定價 三二〇円
書留送料 六五円

著者多年の経験と蘊蓄を傾倒し、幼稚園及小学校低学年用の教材の粹八十曲をあつめ、これを春・夏・秋・冬の四に分けて詳説したもので、絶好の保育資料として各地の講習会等に於て讃辞を頂いています。表紙七色刷・扉等三色刷・美麗製本

遊戯とリレーレース

B6判 二四二頁
定價 二〇〇円
送料 三五円

●多年の蘊蓄を傾倒してものした、遊戯に関する理論及び實際指導の権威書。運動会参考資料として好適。

鬼遊びとかけっこ

B6判 三三七頁
定價 二五〇円
送料 三五円

●遊戯研究及実地指導に不可欠の好著。

近刊予告

お茶の水女子大 戸倉つや江 共著
東京教大附小 小林つや江
保育資料 わらべうた
四六倍判 約三十曲収録
色刷美本 定價未定

古来のわらべうたの粹を集めて分類し新しく著者の独自の的なふりつけを詳説したもので、七月二日 發賣豫定

東京都文京区 大塚仲町二 株式会社 不味堂書店

電話大塚二七〇三 振替東京六八七三三九番

新刊 網讀のトツパンの繪本

幼稚園でも 網讀のトツパンの繪本 西條八十詩・松田文雄画
A4判 二九頁 九〇円

ど う ぶ つ
☆ 子供と犬と猫の生活を美しくかいた繪本 ☆
東大教授 岡栗博士監修
内田武夫画 A4判 二〇頁 九〇円

ことばのえほん
☆ 子供と犬と猫の生活を美しくかいた繪本 ☆
松田文雄 他画
A4判 二〇頁 九〇円

よい子の一日
☆ よい子は毎日を どんなに楽しく 過したことでしよう ☆
松田文雄・風岡四郎他画
A4判 一六頁 七五円

かわいいおともだち
☆ 牛馬羊犬猫あひる小鳥などと楽しく遊ぶ身近な動物の本 ☆
松田文雄・杉全直他画
A4判 一六頁 七五円

たのしいゆうえんち
☆ 豆自動車 お猿電車 メリゴーランド などの楽しい本 ☆
風岡 四郎 他画
A4判 一六頁 七五円

びよこちゃん 九〇円
おもちゃのくに 九〇円
ゆめのおうち 七五円
私は何でしょう 六五円
おみせやさん 六五円
たのしいがつこう 六五円

小川未明・坪田譲治監修
童話三百六十五日
一日一話ついでに幼児が喜ぶお話を
願せた楽しい本 三五〇円

(發行所) 東京都中央区茅場町 **トツパン** 振替東京四一六四七番

9 月 号 予 告

観
察

キンダーブック

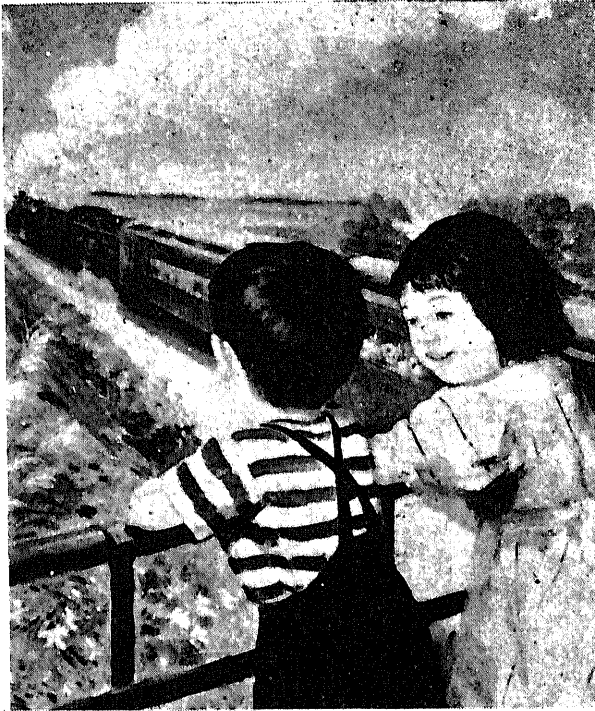
繪
本

KINDER-BOOK

第 6 編

〔きしやあそび〕

第 6 集



自己創造にたえまない
幼児のためには非与えたい!!

A4判・12頁・月一回発行
定価 40円・送料 6円

「汽車」(1)

子供は、汽車がすぎで
す。自分で乗客になり鉄
道員になり、汽車旅行の
遊びをすることは楽しい
ことです。切符もおもち
やなら、お弁当もおもち
やであり、改札がかりに
なることも、車掌になつ
ても、出車合図をすること
も、面白くてたまらない
ごつこあそびです。
子供達が一つ一つの画
面の中に、そこで楽しん
でいる自分達を眺めて楽
しむのが、此の巻の趣向
です。多分子供達は絵の
中の自分になりきること
でしょう。お母さん方も
その気になつて見て下さ
い。しかし、切符も弁当
も皆自分で作った子供達
こそ、一層楽しいに相違
ありません。そこで先生
方は、この巻を一つの参
考にして「単元汽車ごつ
こ」のカリキュラムで一
週間でも一ヶ月でも、子
供のために内容の豊かな
遊びを指導して下さい。こ
とができるでしょう。そ
号の企画の中には、そん
な目的もありました。

発行所

東京都千代田区神田
神保町二丁目四番地

株式
会社

フレーベル館

振替口座東京
一六四〇番